

障害者福祉に関するアンケート 報告書（速報版）

平成28年2月
草津市

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果概要	2
(1) 回答者属性	
(2) 日常生活での介助について	
(3) 障害の状況について	
(4) 住まいや暮らしについて	
(5) 日中活動や就労について	
(6) 障害福祉サービス等の利用状況と利用意向について	
(7) 相談相手について	
(8) 権利擁護について	
(9) 災害時の避難等について	
(10) 草津市の障害者施策について	
3. 調査結果	5
(1) 回答者属性	5
① アンケート記入者	
② 年齢	
③ 性別	
④ 一緒に暮らしている人	
⑤ 家族の人数	
⑥ 日常生活での介助状況	
⑦ 主に介助してくれる人	
⑧ 介助の中心となる家族	
⑨ 介助の中心となる家族の年齢	
⑩ 介助の中心となる家族の健康状態	
(2) 障害の状況について	10
① 身体障害者手帳の所持状況	
② 身体障害者手帳の主たる障害	
③ 療育手帳の所持状況	
④ 精神障害者保健福祉手帳の所持状況	
⑤ 難病との診断を受けたことがあるか	
⑥ 発達障害として診断されたことがあるか	
⑦ 高次脳機能障害として診断されたことがあるか	
⑧ 現在受けている医療的ケア	
(3) 住まいや暮らしについて	14
① 現在の暮らしの状況	
② 将来したいと思う生活	
③ 地域で生活するために、必要だと思う支援	
④ 現在の生活で困っていることや不安に思っていること	

(4) 日中活動や就労について	17
① 一週間の外出頻度	
② 外出時の同行者	
③ 外出目的	
④ 外出時に困ることや、外出をとりやめたりすることはあるか	
⑤ 外出時、どのようなときに困るか、あるいは外出をとりやめるか	
⑥ 平日の日中の主な過ごし方	
⑦ 勤務形態	
⑧ 就労意欲	
⑨ 現在、仕事をしているか	
⑩ 職業訓練の受講意向	
⑪ 障害者の就労支援として必要だと思うこと	
⑫ 病院関係で困っていること	
⑬ 病院関係でどのようなことに困っているか	
(5) 障害福祉サービス等利用について	24
① 障害支援区分認定の状況	
② 要介護認定の状況	
③ 障害福祉サービスの利用状況	
④ 障害福祉サービスの利用意向	
(6) 相談相手について	27
① 悩みや困ったことを相談する相手	
② 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法	
(7) 権利擁護について	29
① 障害により差別を受けた、または嫌な思いをした経験	
② 差別を受けたり、嫌な思いをした場所	
③ 草津市民の障害者に対する理解について	
④ 成年後見人制度の認知	
(8) 災害時の避難等について	31
① 災害時の一人で避難できるか	
② 近所に助けてくれる人はいるか	
③ 災害時、障害があることで困ること、心配なこと	
(9) 草津市の障害者施策について	33
① 各施策についての満足度	
② 各施策についての重要度	

1. 調査概要

■目的

障害者の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向などを把握し、「障害者計画」「障害福祉計画」の基礎資料とすることを目的とし調査を実施した。

■方法

郵送による配布・回収

■調査期間

平成 29 年 1 月 13 日～平成 29 年 1 月 31 日

■ 対象と回収の状況

調査対象	身体障害者 手帳所持者	療育手帳所 持者	精神障害者 保健福祉手帳 所持者	難病患者	一般市民
抽出方法	40 歳未満は全数抽出、40 歳以上は 10 歳階級で層化無作為抽出 (精神障害者保健福祉手帳、療育手帳保持者および免疫機能障害者を除く)	全数抽出 (精神障害者保健福祉手帳保持者を除く)	全数抽出	特定医療費(指定難病)受給者から全数抽出	無作為抽出
抽出基準日	平成 28 年 11 月 30 日				
配布数	3,010 件			890 件	1,000 件
	40 歳未満 : 195 件 40 歳以上 : 995 件 合計 : 1,190 件	968 件	852 件		
有効回答数(率)	1,708 件 (調整中)				390 件 (39.0%)

2. 調査結果概要

(1) 回答者属性

回答者の属性は、「男性」「女性」とともに約5割、「60～69歳」が最も多く1.6割、次いで「70～79歳」が1.4割、「40～49歳」が1.3割などとなっています。

同居している人は「配偶者」が最も多く約4割、次いで「父母」が約3割、「子ども」が2割強などとなっており、「いない（一人で暮らしている）」は1割となっています。

(2) 日常生活での介助について

「全部介助が必要」なことは、全体では「お金の管理」が最も多く、次いで「薬の管理」、「外出」となっています。

「一部介助が必要」なことについては、全体では「外出」が最も多く、次いで「家族以外の人に、自分の考えを伝える」、「身だしなみ」などとなっています。

(3) 障害の状況について

身体障害者手帳は全体の4.6割が所持しており、「1級」が1.5割、「2級」から「4級」が2.5割、「5級」「6級」は1割以下となっています。身体障害者手帳の主たる障害は「肢体不自由」が最も多く約5割、次いで「内部障害（心臓、腎臓、呼吸器など）」が2.5割となっています。

療育手帳は2割強が所持しており、「A判定」が1割弱、「B判定」が1割強となっています。

精神障害者保健福祉手帳は1割強が所持しており、「2級」が最も多く1割となっています。

難病として診断を受けている人は3割となっています。

発達障害として診断を受けた人は1割強となっています。

高次脳機能障害として診断を受けた人は1割以下となっています。

(4) 住まいや暮らしについて

「家族と暮らしている」が最も多く8割弱、次いで「一人で暮らしている」が1割となっています。また、「福祉施設で暮らしている」「病院に入院している」はそれぞれ1割以下となっています。

将来の暮らし方について、全体では「今のまま生活したい」が最も多く6割弱、次いで「家族と一緒に生活したい」が1割強などとなっています。

地域で生活するために必要だと思う支援は、全体では「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が最も多く6割弱、次いで「生活に必要なお金の負担が軽減されること」、「緊急時に助けてくれる人がいること」、「相談できる場所や人等が充実していること」が上位となっています。

現在の生活で困っていることや不安に思うことは、全体では「自分の健康や体力に自身がない」が最も多く3割、次いで「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安である」が上位となっています。

(5) 日中活動や就労について

外出の際に困ることや外出をとりやめた理由は、「困った時にどうすればいいのか心配である」が最も多く3割弱、次いで「道路（歩道）や駅に階段や段差が多い」「発作など突然の体調不良が心配である」「バスや電車などの公共交通機関が少ない、またはない」がそれぞれ2割強などとなっています。

「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」人は2割であり、勤務形態は「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が最も多く4割、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が4割弱などとなっています。

働く意欲がある人は5割弱、このうち実際に就労している人は5割となっています。

障害者の就労支援として必要なこととして、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が最も多く約5割、次いで「短時間勤務や勤務日数、時間差出勤等の配慮」が3割強、「通勤手段の確保」が3割などとなっています。

病院関係で困っている人は3割強であり、困っている内容は「医療費の負担が大きい」が最も多く3割強、次いで「専門的な治療を行う病院が身近にない」「交通費の負担が大きい」「障害が理由で治療を受けにくい診療科がある」がそれぞれ2割以上などとなっています。

(6) 障害福祉サービス等の利用状況と利用意向について

利用しているサービスは「計画相談支援」が最も多く1割強、次いで「生活介護」「移動支援事業」がそれぞれ約1割などとなっています。

利用意向は、全体では「移動支援事業」が最も多く3.5割、次いで「計画相談支援」が3割強、「短期入所（ショートステイ）」「障害者相談支援事業」がそれぞれ3割弱などとなっています。

(7) 相談相手について

悩みや困ったことの相談先は「家族や親せき」が最も多く7割強、次いで「かかりつけの医師や看護師」「友人・知人」がそれぞれ約3割などとなっています。

(8) 権利擁護について

障害があることで差別を受けた、または嫌な思いをしたことがある人は3.5割となっています(「ある」「少しある」の合計)。また、そのような経験をした場所は「学校・職場」が最も多く約4.5割、次いで「住んでいる地域」「近所」がそれぞれ3割弱などとなっています。

草津市民の障害者に対する理解は進んできたと回答した人は3割強となっています(「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」の合計)。

成年後見人制度について「名前も内容も知っている」は約3.5割、「名前も内容も知らない」が約2.5割となっています。

(9) 災害時の避難等について

災害時の一人での避難について、「できる」が4割、「できない」が3割強、「わからない」が2割となっています。

近所に自分を助けてくれる人はいるかについて、「いる」が2割強、「いない」「わからない」がそれぞれ3割強となっています。

災害時、障害があることで困ることや心配なことは、全体では「治療が受けられない、薬がもらえない、医療的ケアが受けられない」が最も多く4.5割、次いで「安全なところまで、すばやく避難することができない」「避難場所の生活環境(他人との関わり等)が不安」「避難場所の設備(トイレ等)が不安」がそれぞれ約4割などとなっています。

(10) 草津市の障害者施策について

草津市の障害者施策の満足度(「満足」「どちらかといえば満足」の合計)は、全体では「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が最も多く1割強、次いで「安全・安心に暮らせる地域づくり」「相談支援体制の充実と情報受発信の強化」「福祉のまちづくりの推進」がそれぞれ1割などとなっています。

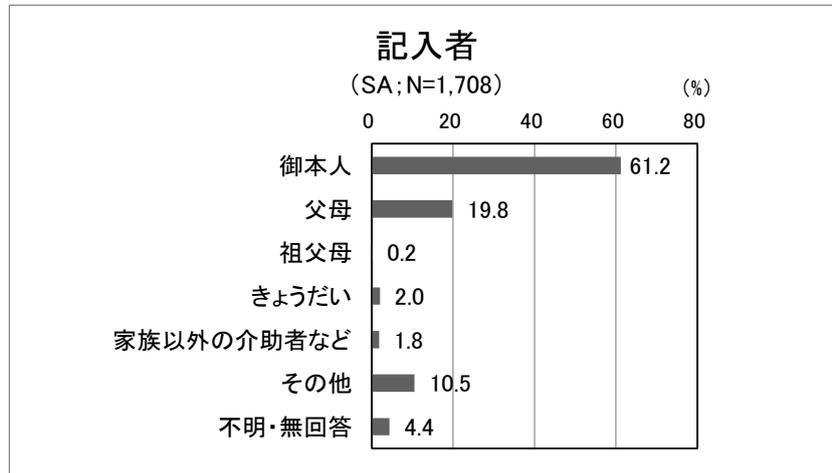
草津市の障害者施策の重要度(「重要」「やや重要」の合計)は、全体では「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が最も多く約6割、次いで「安心・安全に暮らせる地域づくり」が6割弱、「福祉のまちづくりの推進」「健やかに生きるための取り組みの充実」がそれぞれ5割強などとなっています。

3. 調査結果

(1) 回答者属性

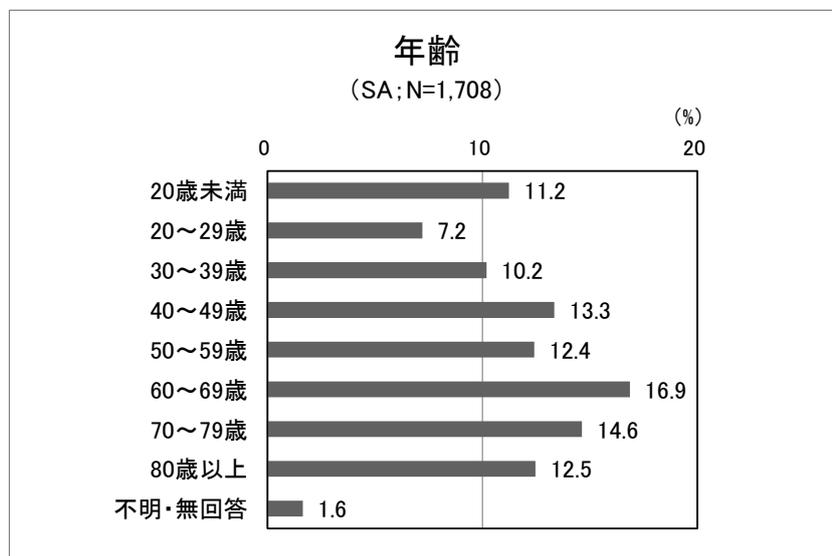
① 記入者

「御本人」が61.2%、次いで「父母」が19.8%、「その他」が10.5%などとなっています



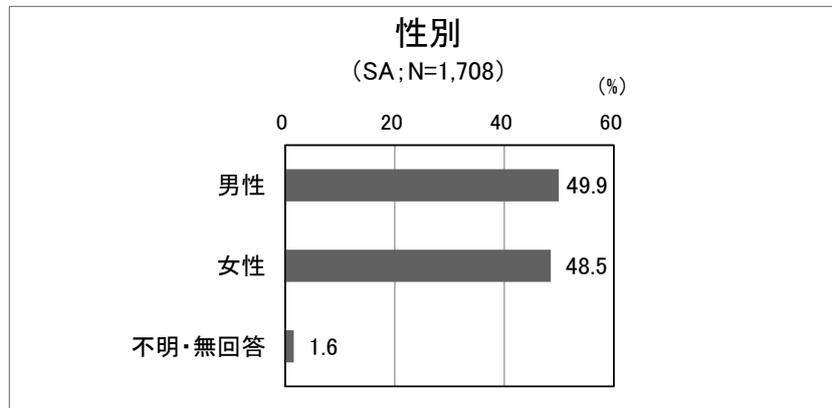
② 年齢

「60～69歳」が最も多く16.9%、次いで「70～79歳」が14.6%、「40～49歳」が13.3%、「80歳以上」が12.5%などとなっています。



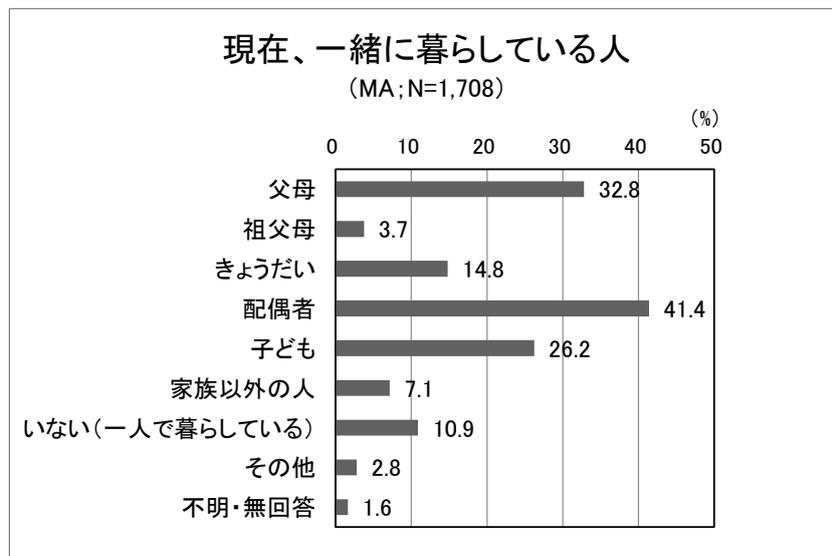
③ 性別

「男性」が49.9%、「女性」が48.5%となっています。



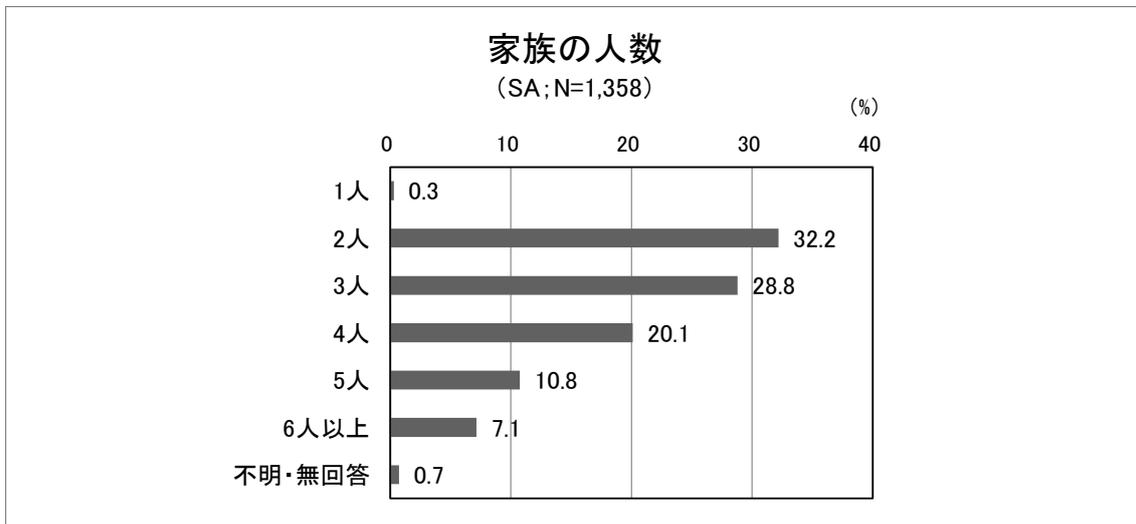
④ 現在、一緒に暮らしている人

「配偶者」が最も多く41.4%、次いで「父母」が32.8%、「子ども」が26.2%、「きょうだい」が14.8%などとなっています。



⑤ 家族の人数

「2人」が最も多く32.2%、次いで「3人」が28.8%、「4人」が20.1%などとなっています。

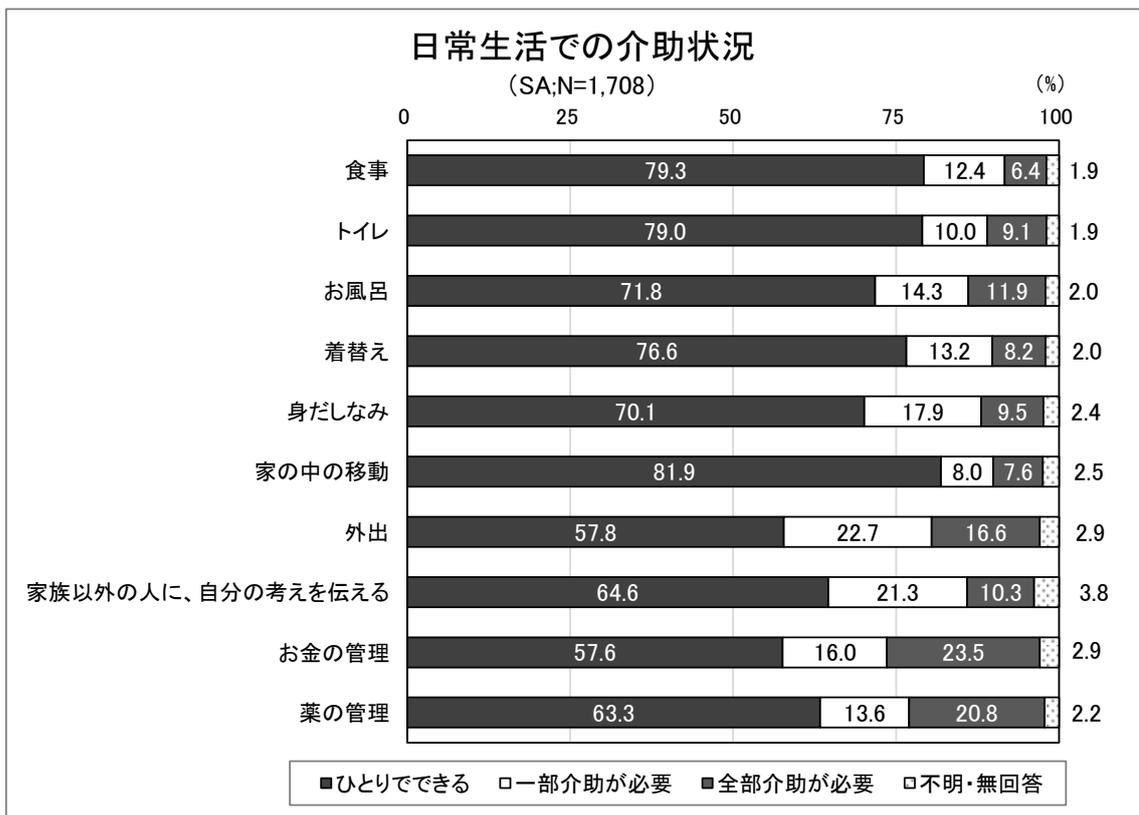


⑥ 日常生活での介助状況

「ひとりでできる」は「家の中の移動」が最も多く81.9%、次いで「食事」が79.3%、「トイレ」が79.0%、「着替え」が76.6%などとなっています。

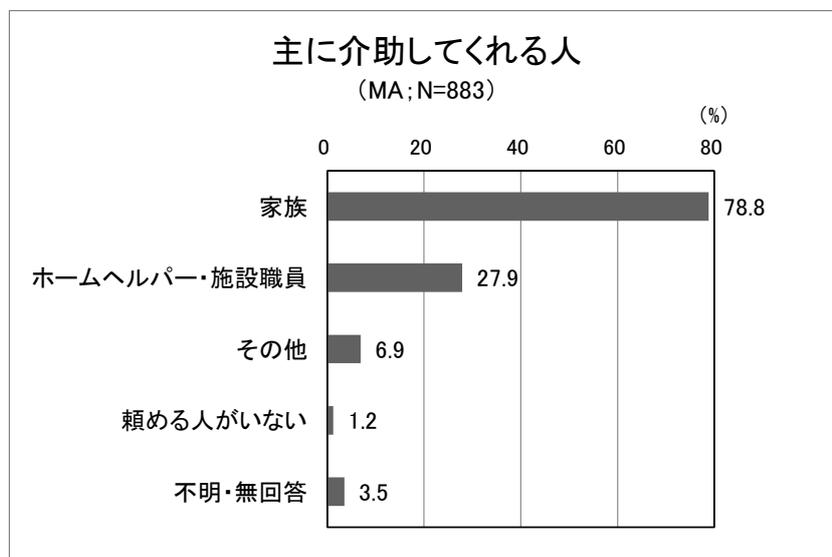
「一部介助が必要」は「外出」が最も多く22.7%、次いで「家族以外の人に、自分の考えを伝える」が21.3%、「身だしなみ」が17.9%などとなっています。

「全部介助が必要」は「お金の管理」が最も多く23.5%、次いで「薬の管理」が20.8%、「外出」が16.6%などとなっています。



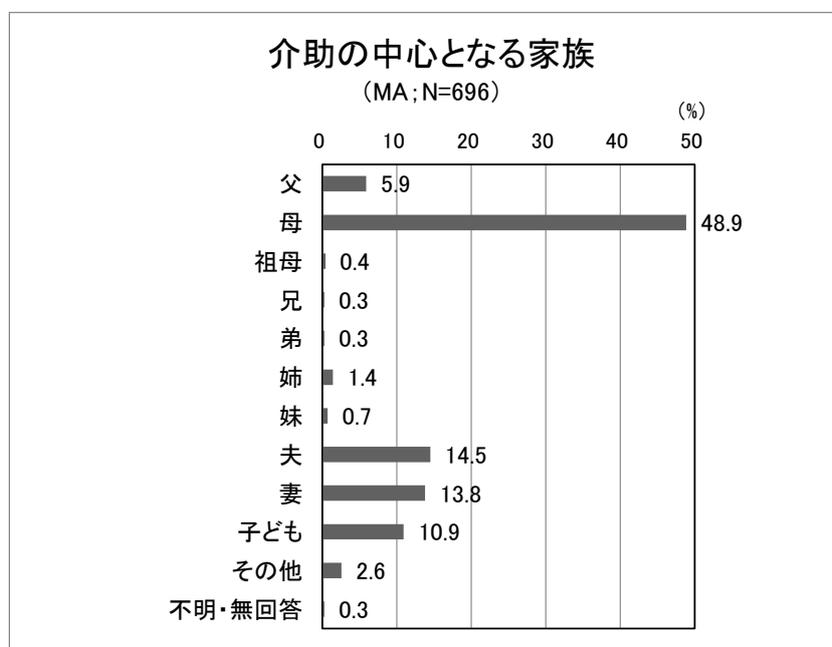
⑦ 主に介助してくれる人

「家族」が最も多く78.8%、次いで「ホームヘルパー・施設職員」が27.9%などとなっています。



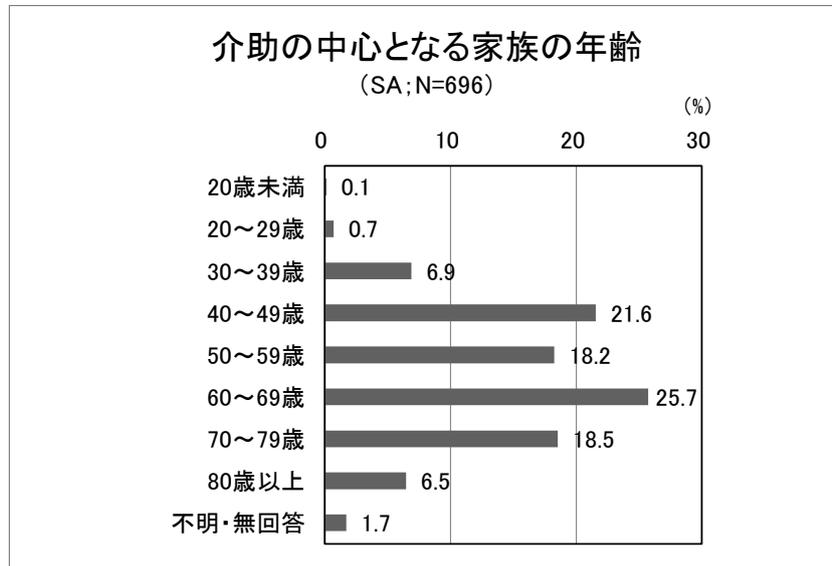
⑧ 介助の中心となる家族

「母」が最も多く48.9%、次いで「夫」が14.5%、「妻」が13.8%、「子ども」が10.9%などとなっています。



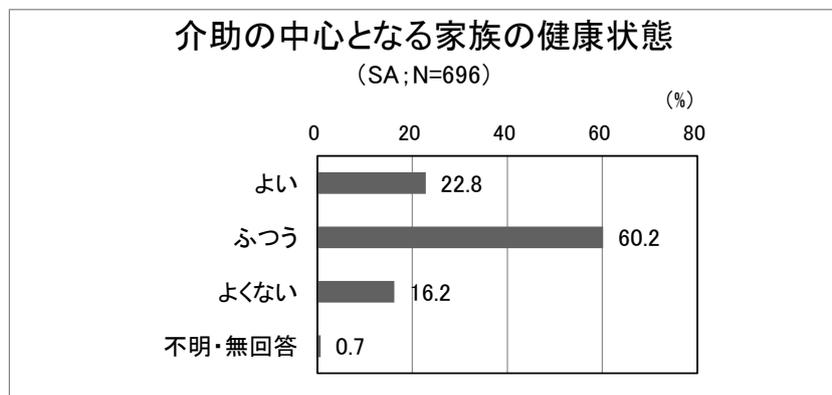
⑨ 介助の中心となる家族の年齢

「60～69歳」が最も多く25.7%、次いで「40～49歳」が21.6%、「70～79歳」が18.5%、「50～59歳」が18.2%などとなっています。



⑩ 介助の中心となる家族の健康状態

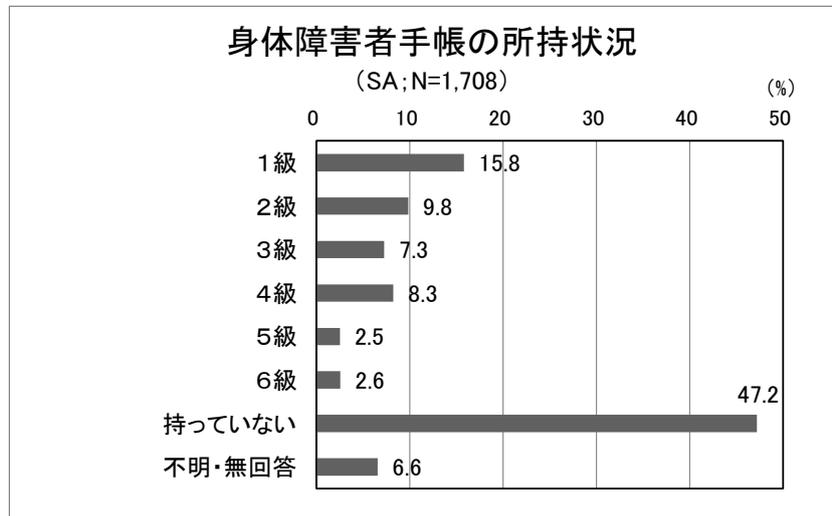
「ふつう」が最も多く60.2%、次いで「よい」が22.8%、「よくない」が16.2%などとなっています。



(2) 障害の状況について

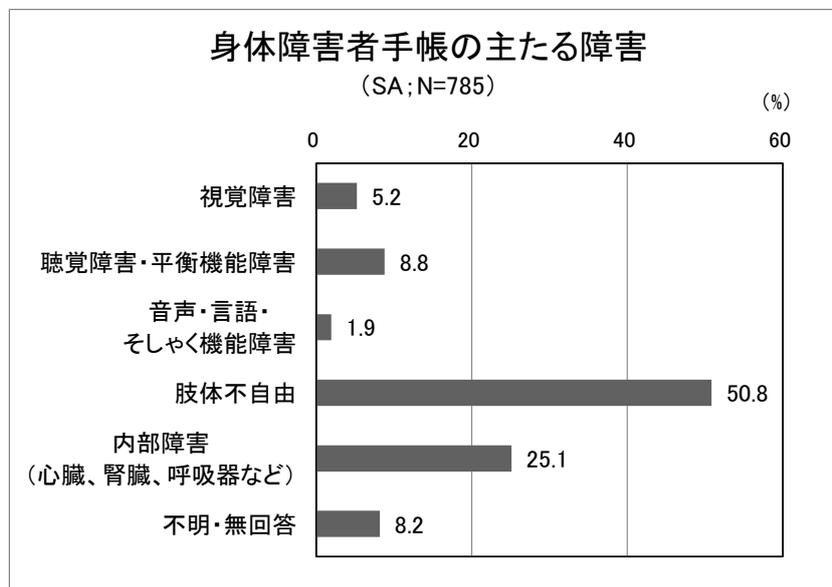
① 身体障害者手帳の所持状況

「持っていない」が最も多く47.2%、次いで「1級」が15.8%、「2級」が9.8%、「4級」が8.3%などとなっています。



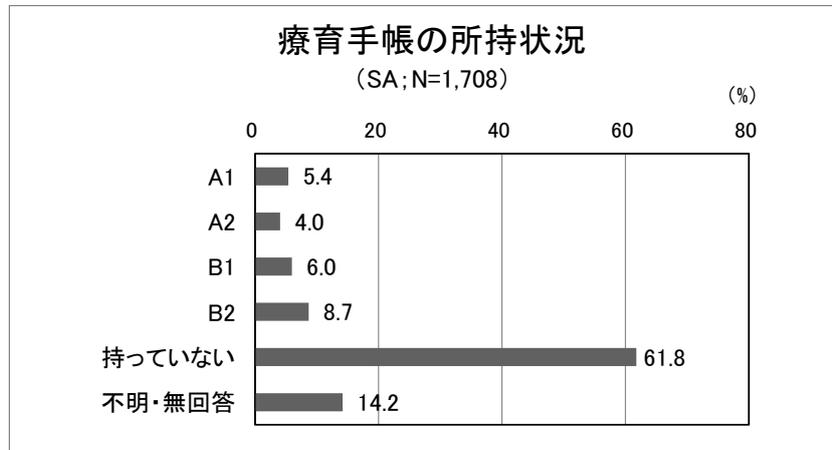
② 身体障害者手帳の主たる障害

「肢体不自由」が最も多く50.8%、次いで「内部障害（心臓、腎臓、呼吸器など）」が25.1%、「聴覚障害・平衡機能障害」が8.8%などとなっています。



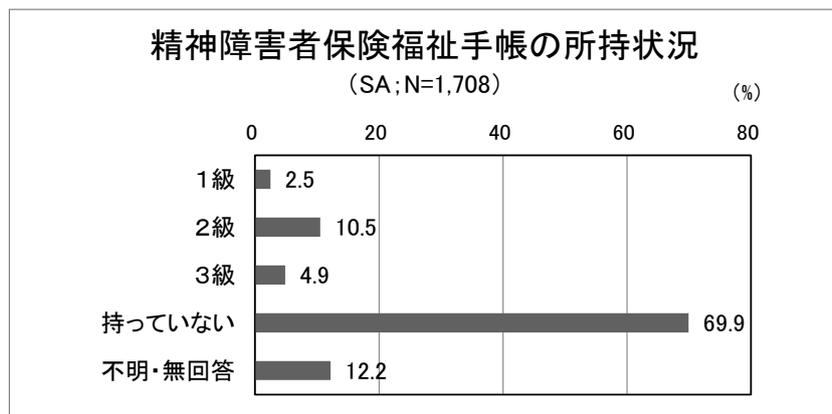
③ 療育手帳の所持状況

「持っていない」が最も多く 61.8%、次いで「B 2」が 8.7%などとなっています。



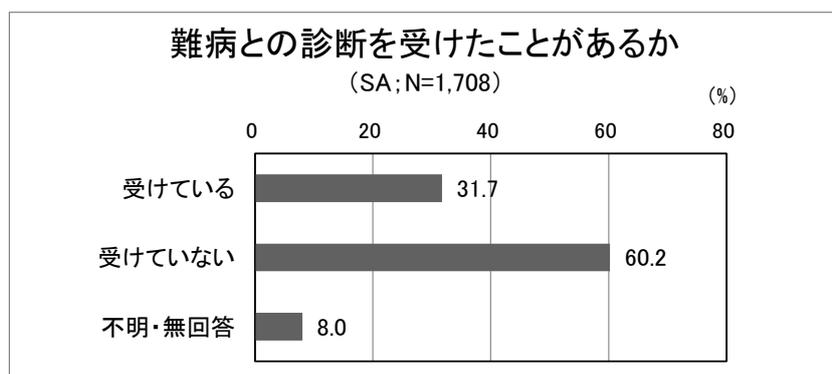
④ 精神障害者保健福祉手帳の所持状況

「持っていない」が最も多く 69.9%、次いで「2級」が 10.5%などとなっています。



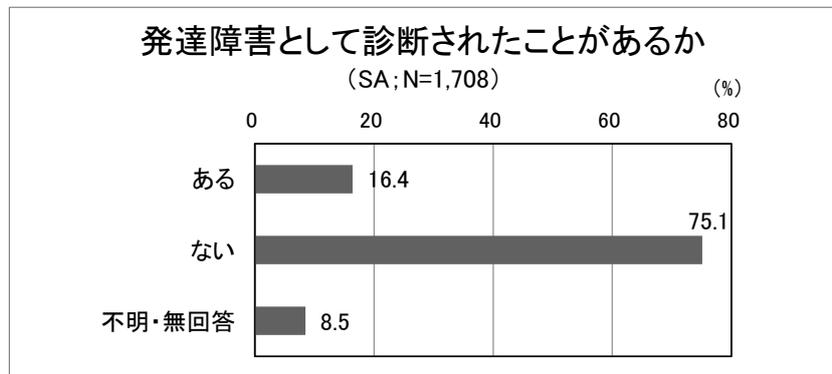
⑤ 難病との診断を受けたことがあるか

「受けている」が 31.7%、「受けていない」が 60.2%となっています。



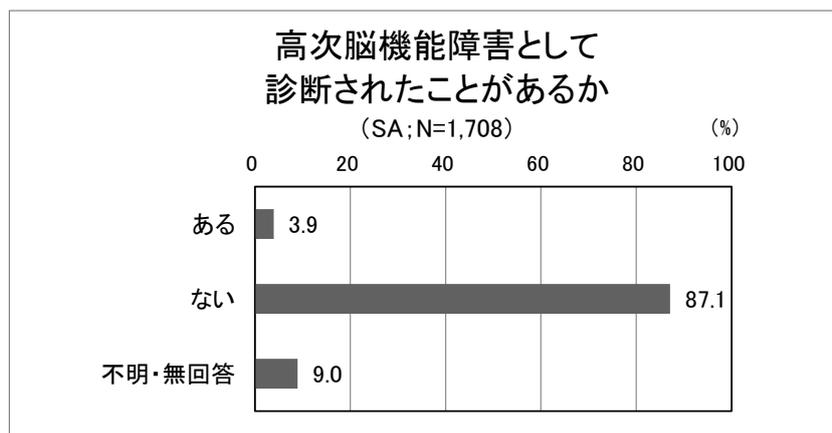
⑥ 発達障害として診断されたことがあるか

「ある」が16.4%、「ない」が75.1となっています。



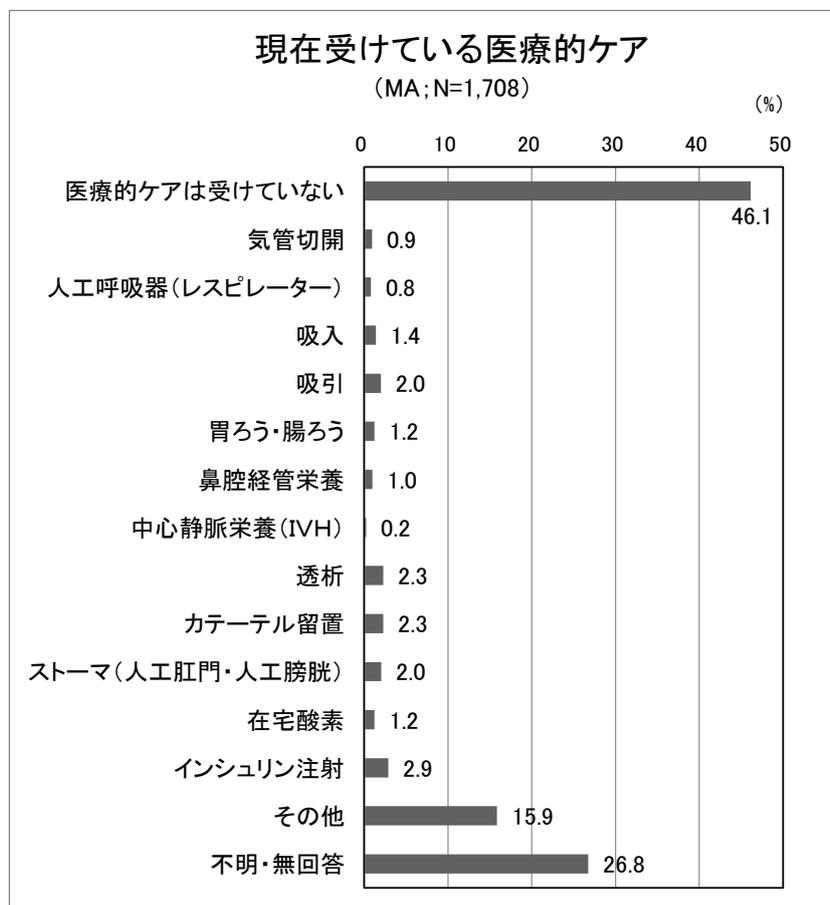
⑦ 高次脳機能障害として診断されたことがあるか

「ある」が3.9%、「ない」が87.1となっています。



⑧ 現在受けている医療的ケア

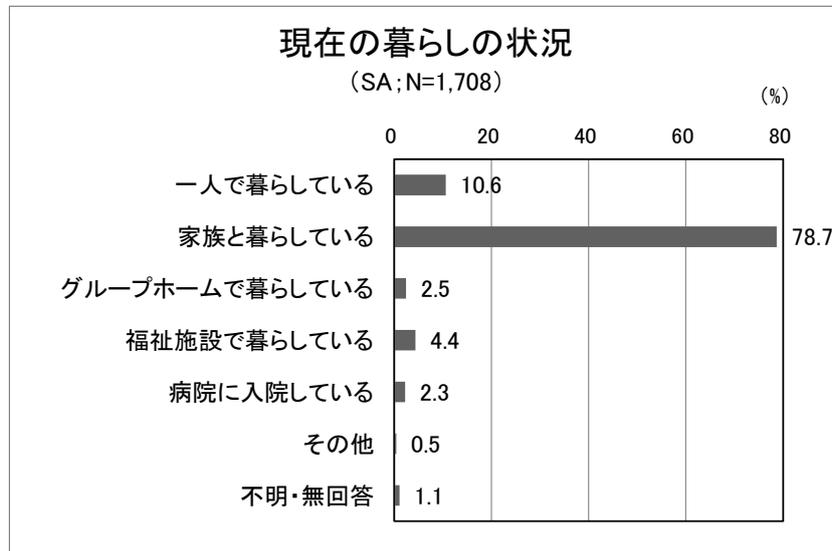
「医療的ケアは受けていない」が最も多く46.1%、次いで「その他」が15.9%などとなっています。



(3) 住まいや暮らしについて

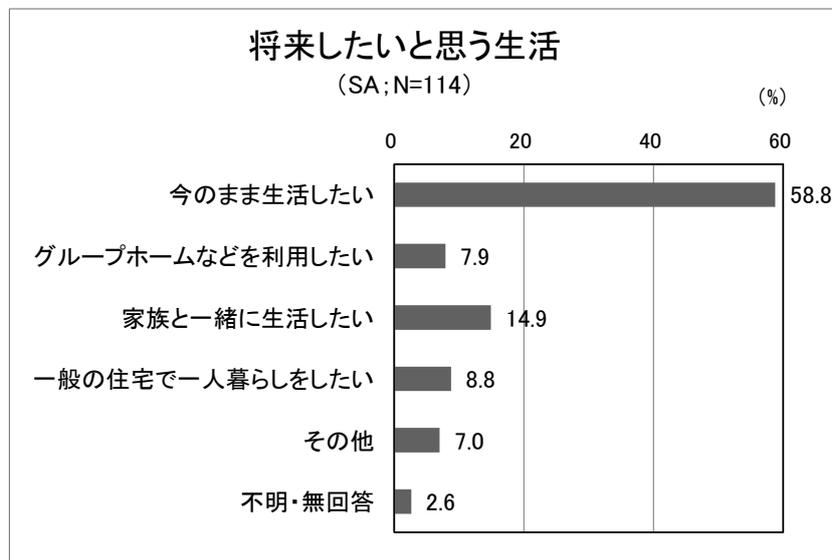
① 現在の暮らしの状況

「家族と暮らしている」が最も多く 78.7%、次いで「一人で暮らしている」が 10.6%などとなっています。



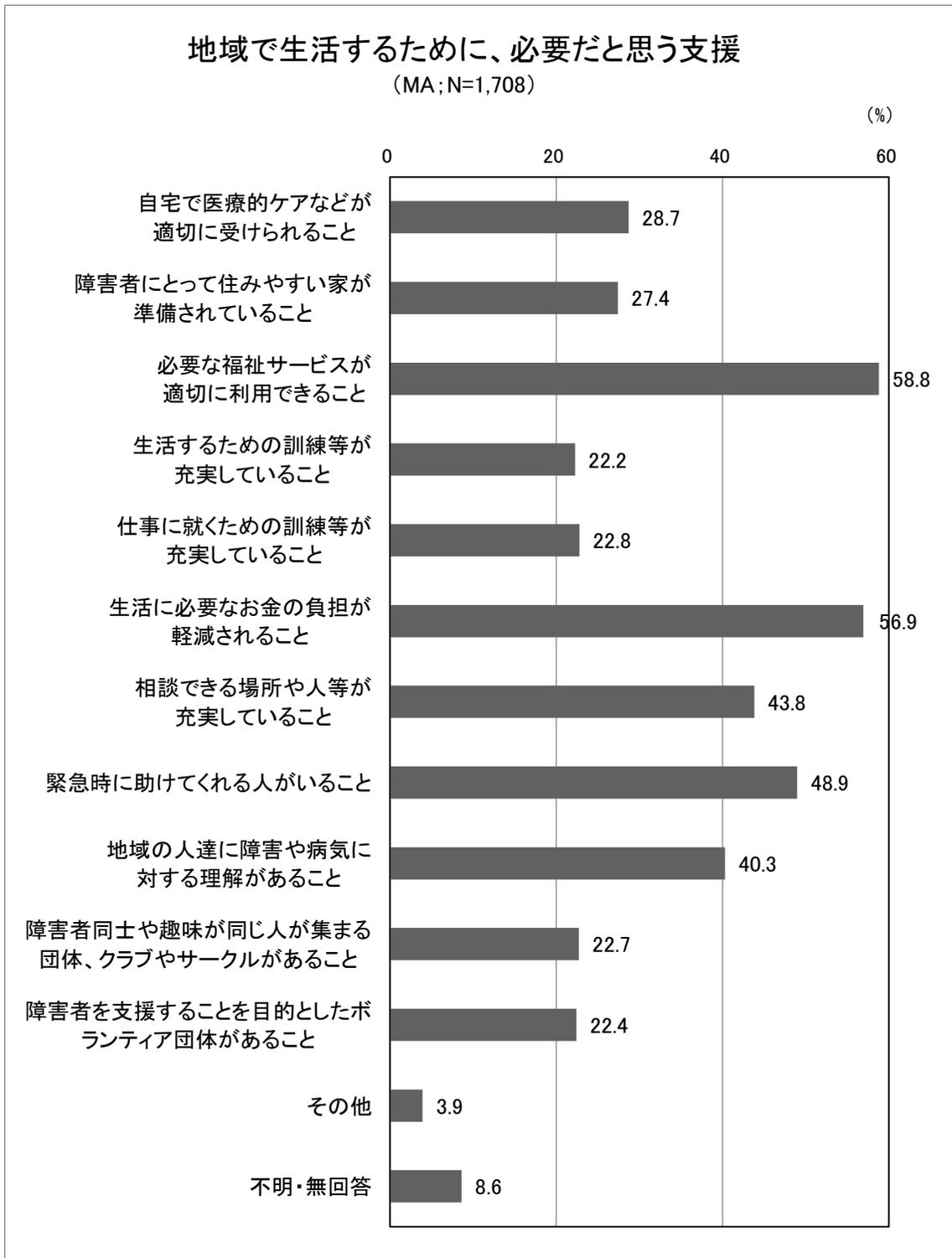
② 将来したいと思う生活

「今のまま生活したい」が最も多く 58.8%、次いで「家族と一緒に生活したい」が 14.9%などとなっています。



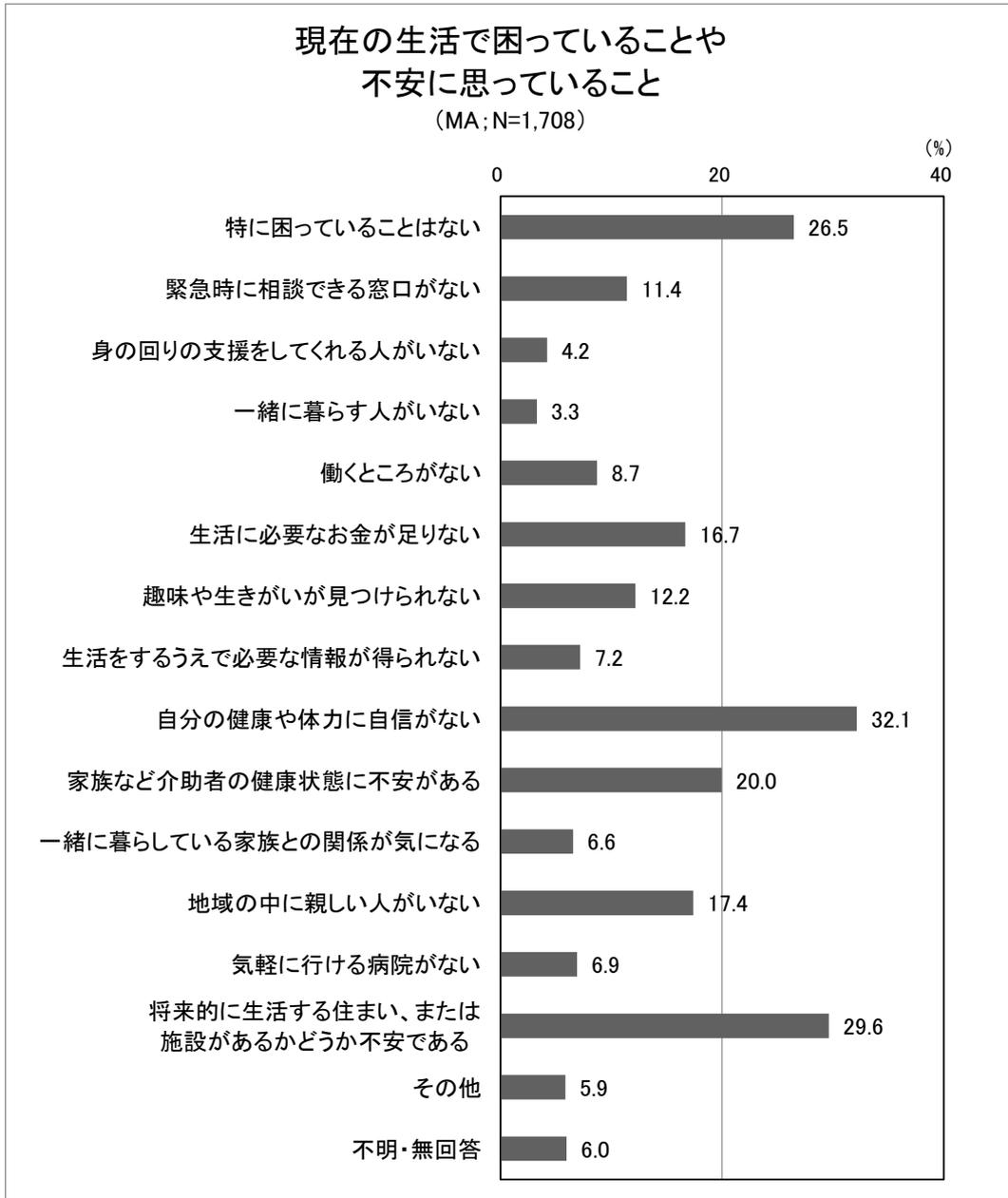
③ 地域で生活するために、必要だと思う支援

「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が最も多く 58.8%、次いで「生活に必要なお金の負担が軽減されること」が 56.9%、「緊急時に助けてくれる人がいること」が 48.9%などとなっています。



④ 現在の生活で困っていることや不安に思っていること

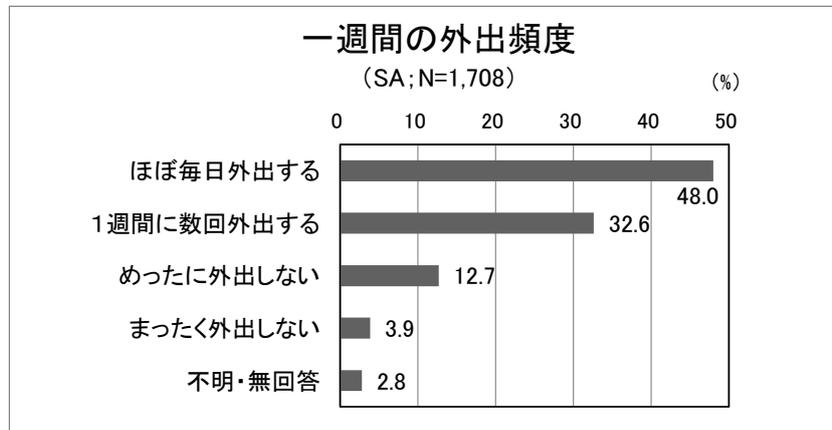
「自分の健康や体力に自信がない」が最も多く 32.1%、次いで「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安である」が 29.6%、「特に困っていることはない」が 26.5%などとなっています。



(4) 日中活動や就労について

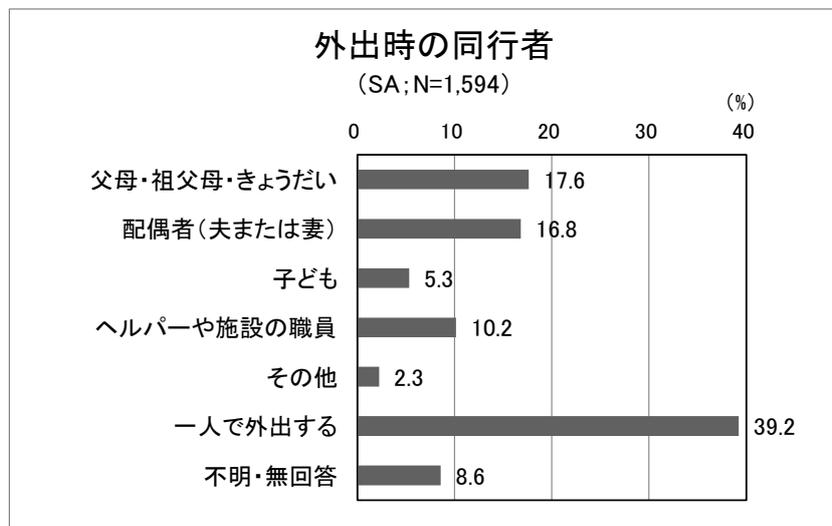
① 一週間の外出頻度

「ほぼ毎日外出する」が最も多く 48.0%、次いで「1週間に数回外出する」が 32.6%、「めったに外出しない」が 12.7%などとなっています。



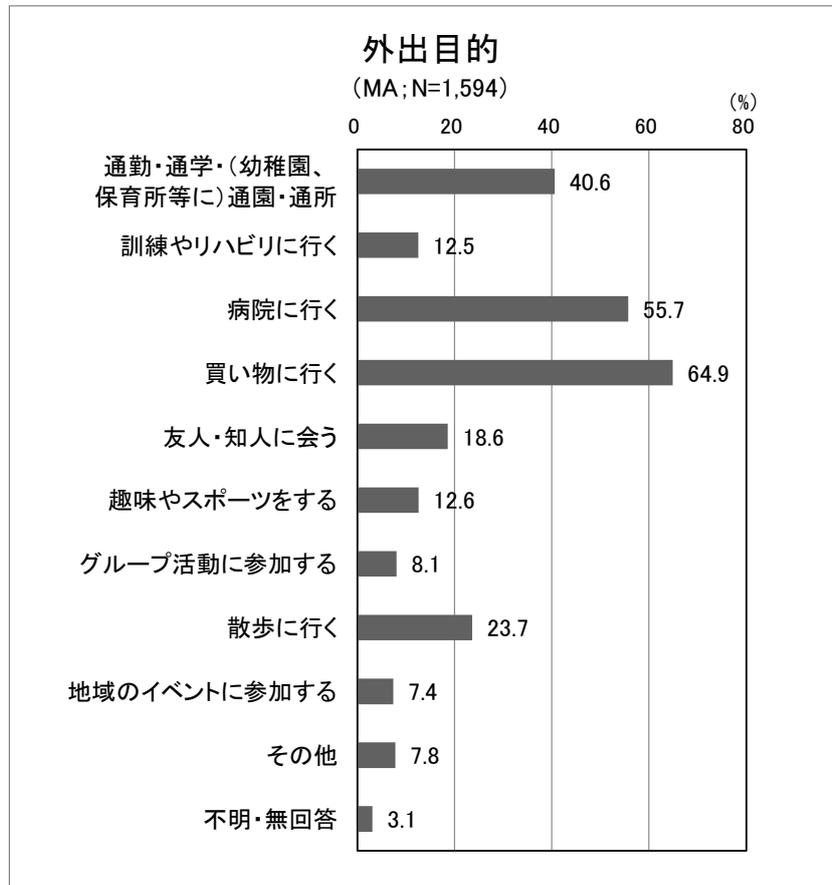
② 外出時の同行者

「一人で外出する」が最も多く 39.2%、次いで「父母・祖父母・きょうだい」が 17.6%、「配偶者(夫または妻)」が 16.8%などとなっています。



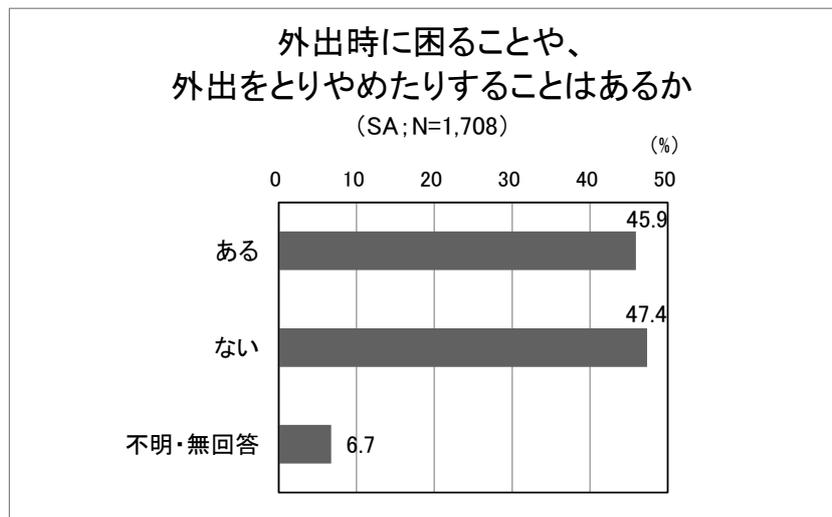
③ 外出目的

「買い物に行く」が最も多く 64.9%、次いで「病院に行く」が 55.7%、「通勤・通学・（幼稚園、保育所等に）通園・通所」が 40.6%などとなっています。



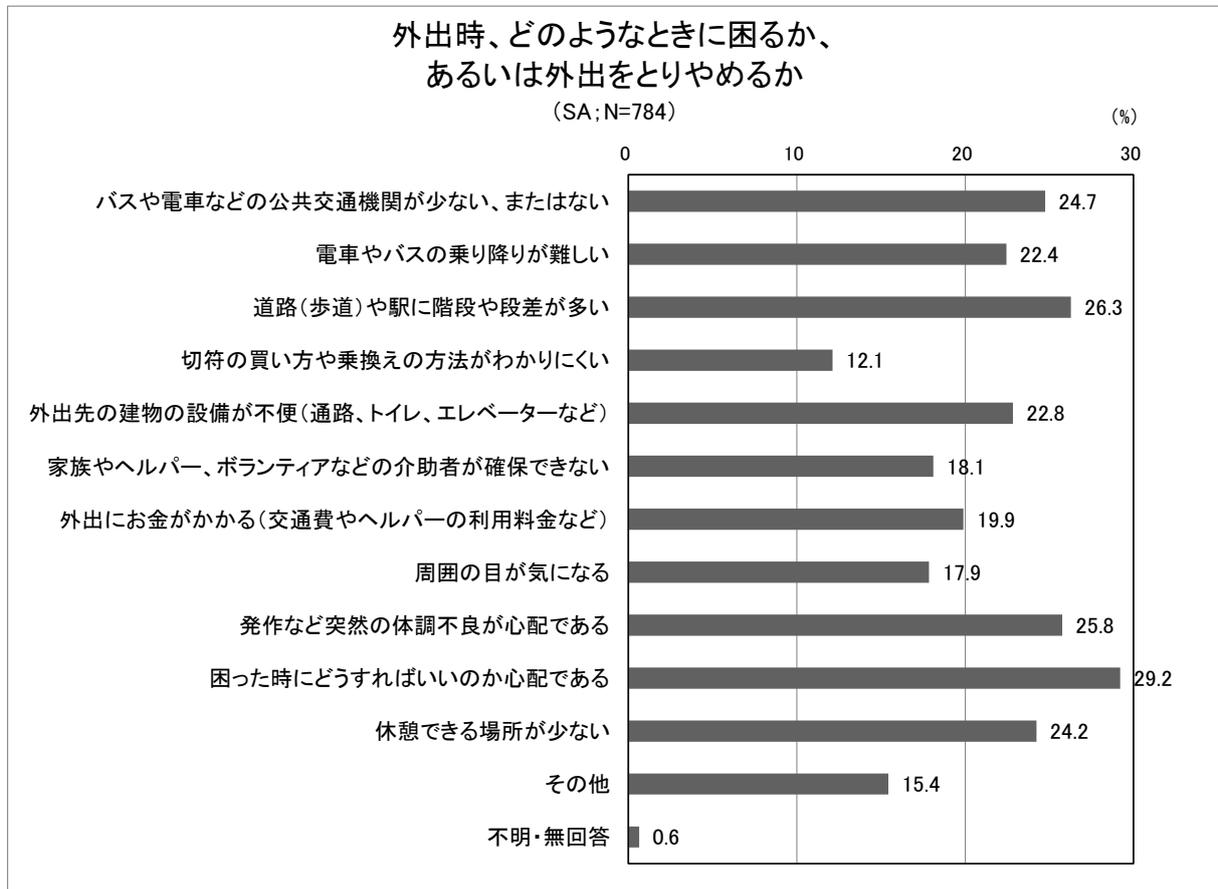
④ 外出時に困ることや、外出をとりやめたりすることはあるか

「ある」が 45.9%、「ない」が 47.4%となっています。



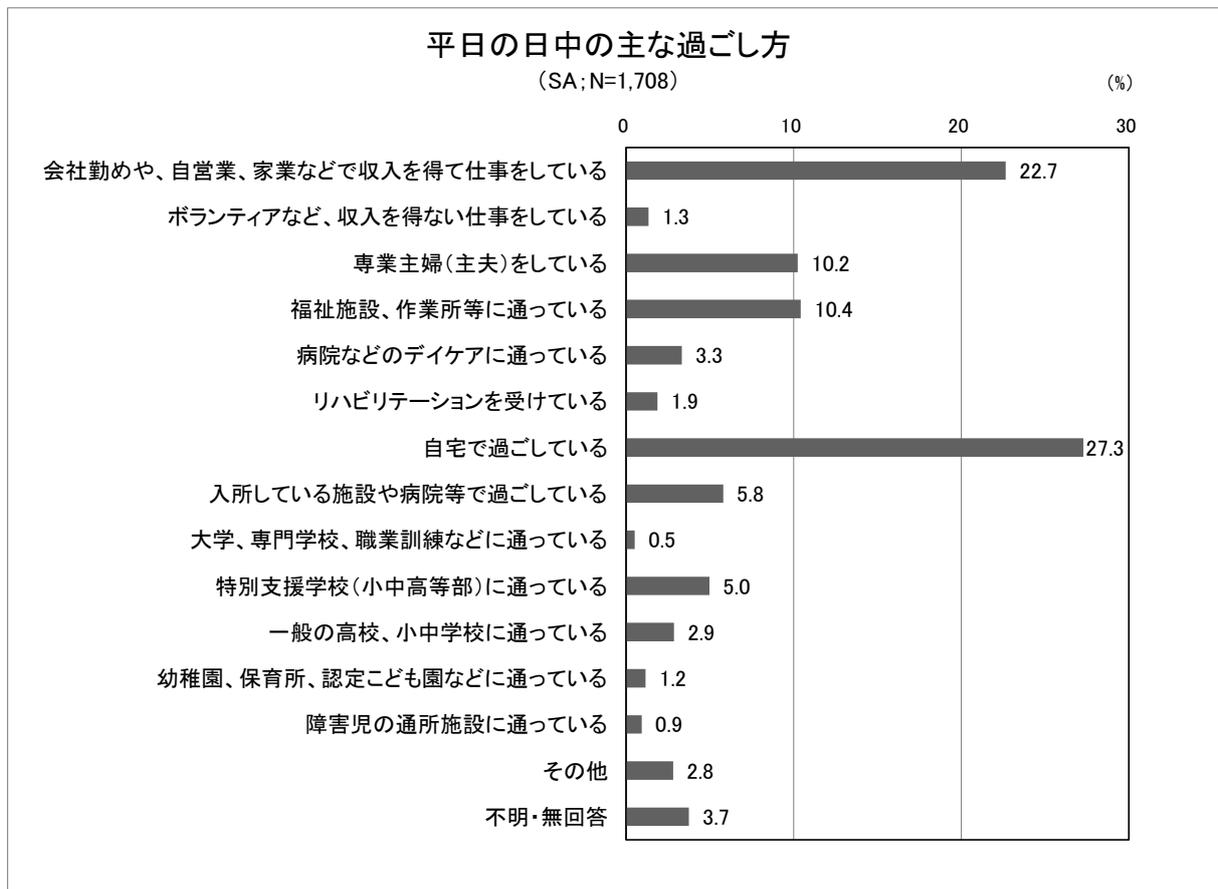
⑤ 外出時、どのようなときに困るか、あるいは外出をとりやめるか

「困った時にどうすればいいのか心配である」が最も多く 29.2%、次いで「道路（歩道）や駅に階段や段差が多い」が 26.3%、「発作など突然の体調不良が心配である」が 25.8%などとなっています。



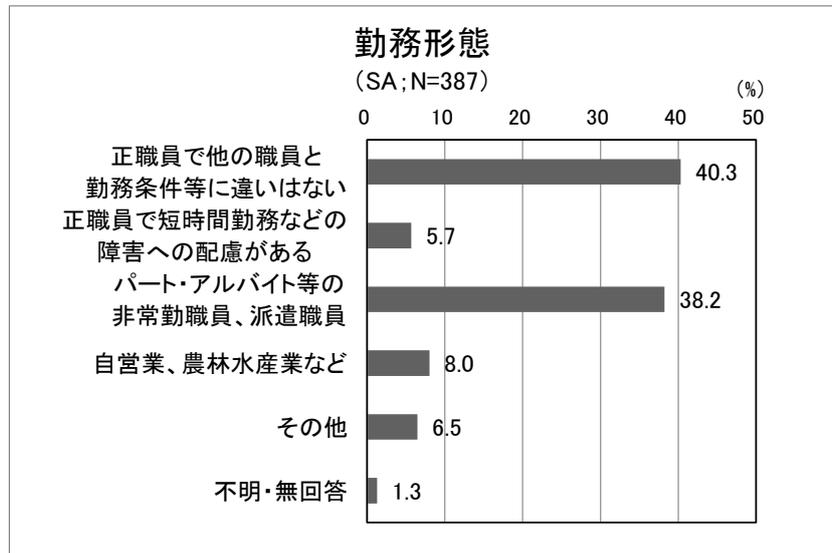
⑥ 平日の日中の主な過ごし方

「自宅で過ごしている」が最も多く27.3%、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が22.7%、「福祉施設、作業所等に通っている」が10.4%などとなっています。



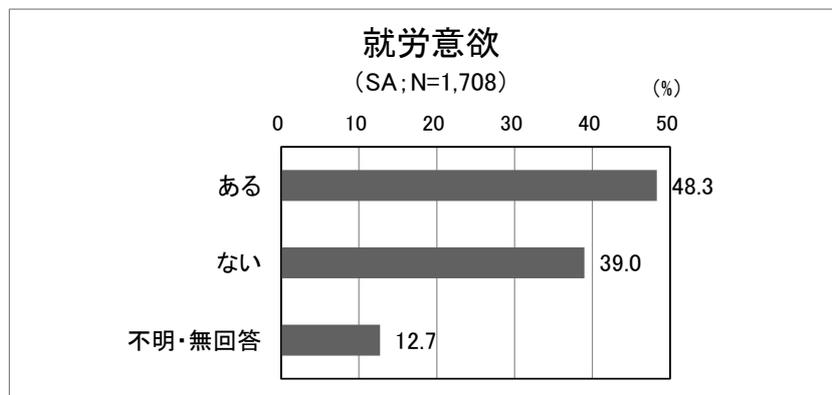
⑦ 勤務形態

「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が最も多く 40.3%、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が 38.2%などとなっています。



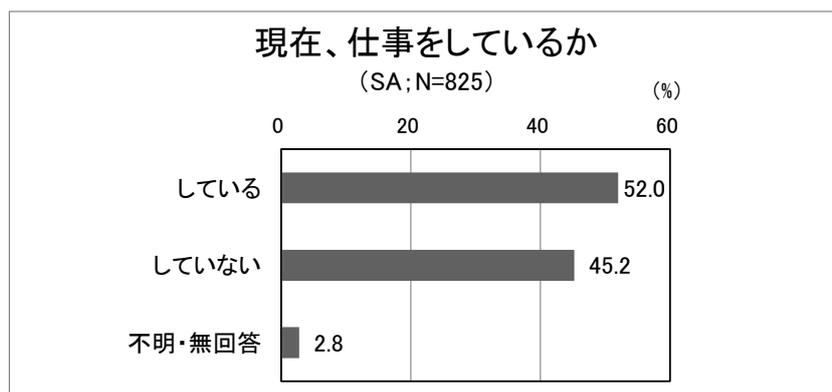
⑧ 就労意欲

「ある」が 48.3%、「ない」が 39.0%となっています。



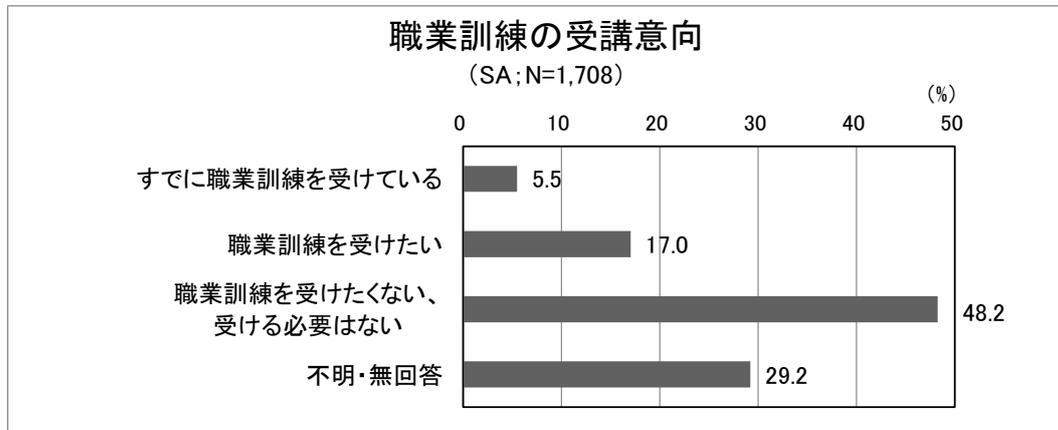
⑨ 現在、仕事をしているか

「している」が最も多く 52.0%、「していない」が 45.2%となっています。



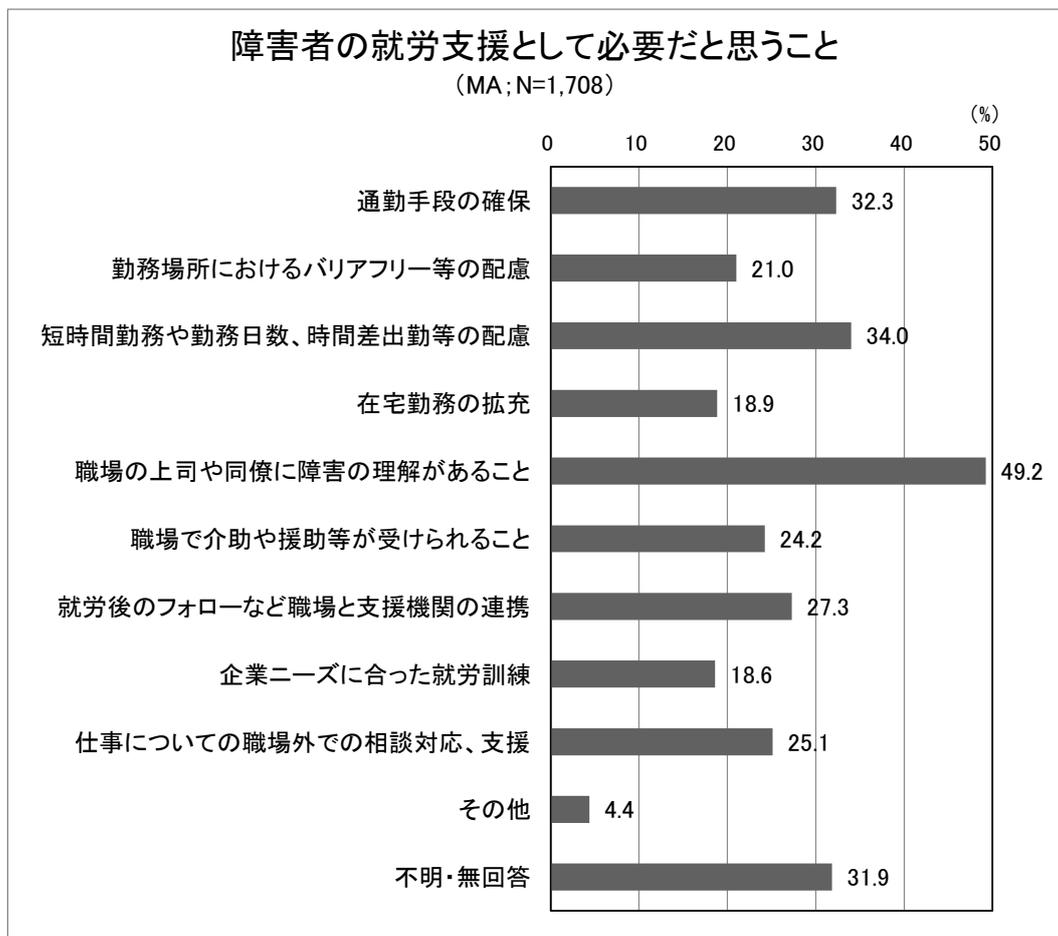
⑩ 職業訓練の受講意向

「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が最も多く48.2%、次いで「職業訓練を受けたい」が17.0%、「すでに職業訓練を受けている」が5.5%となっています。



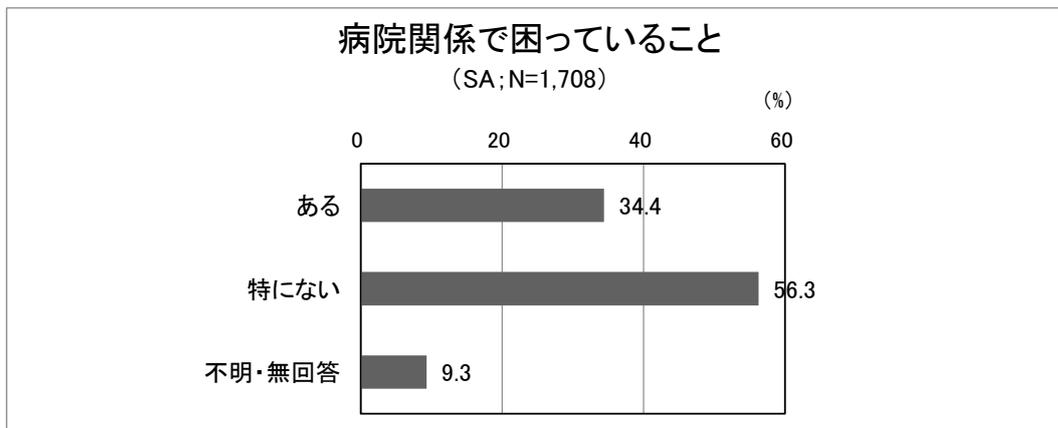
⑪ 障害者の就労支援として必要だと思うこと

「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が最も多く49.2%、「短時間勤務や勤務日数、時間差出勤等の配慮」が34.0%、「通勤手段の確保」が32.3%などとなっています。



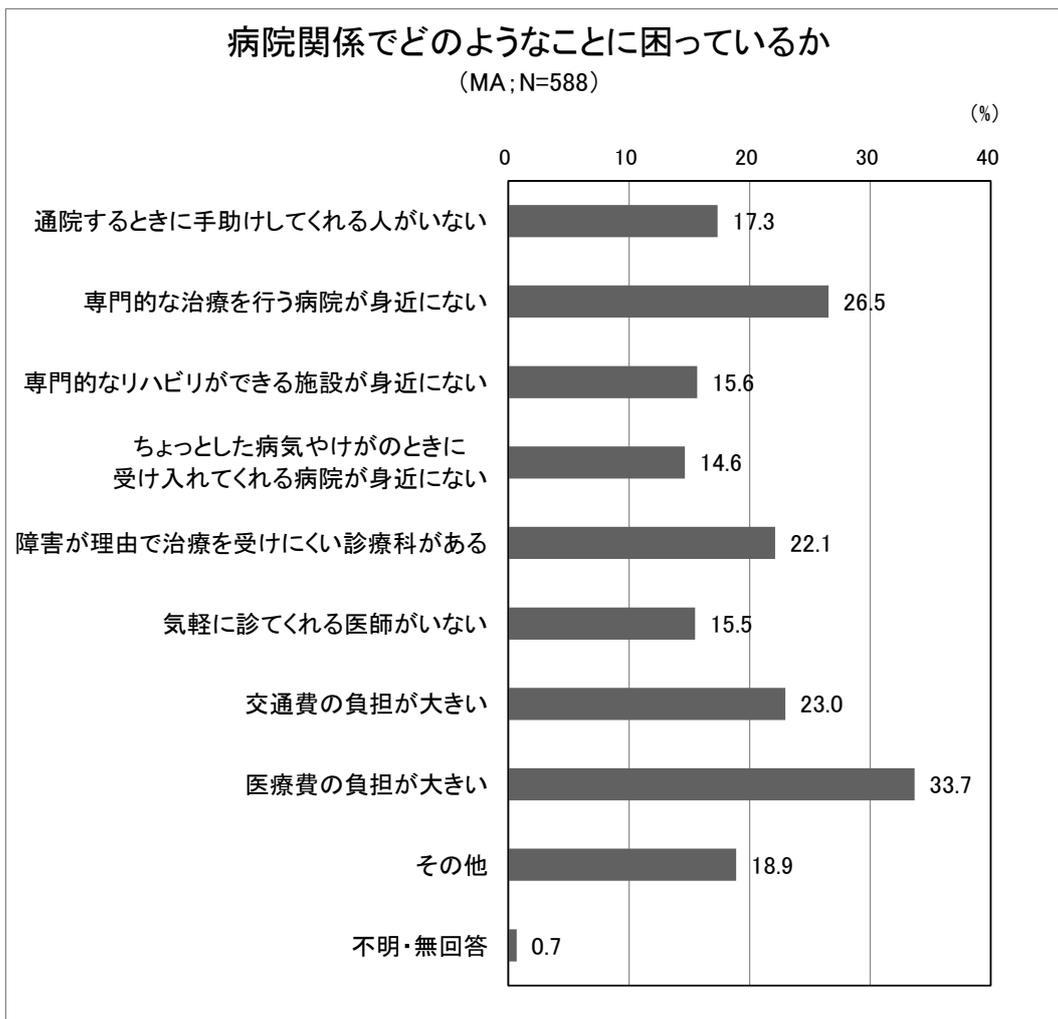
⑫ 病院関係で困っていること

「ある」が33.3%、「特にない」が55.6%となっています。



⑬ 病院関係でどのようなことに困っているか

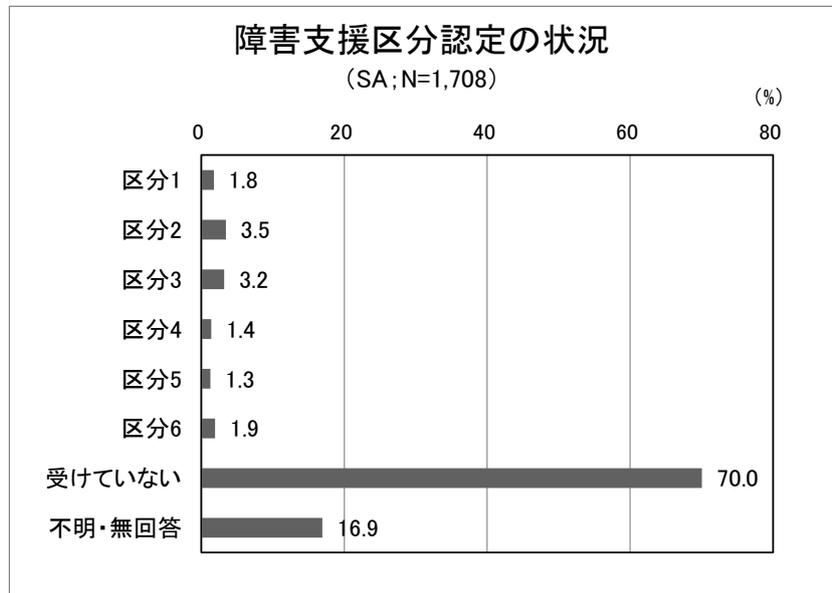
「医療費の負担が大きい」が最も多く33.7%、「専門的な治療を行う病院が身近にない」が26.5%、「交通費の負担が大きい」が23.0%などとなっています。



(5) 障害福祉サービス等利用について

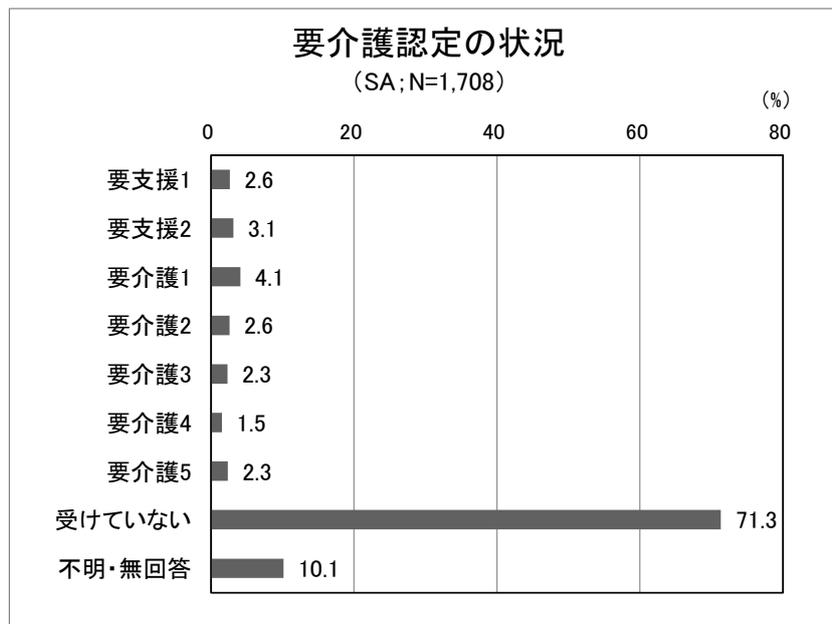
① 障害支援区分認定の状況

「受けていない」が最も多く70.0%、次いで「区分2」が3.5%、「区分3」が3.2%などとなっています。



② 要介護認定の状況

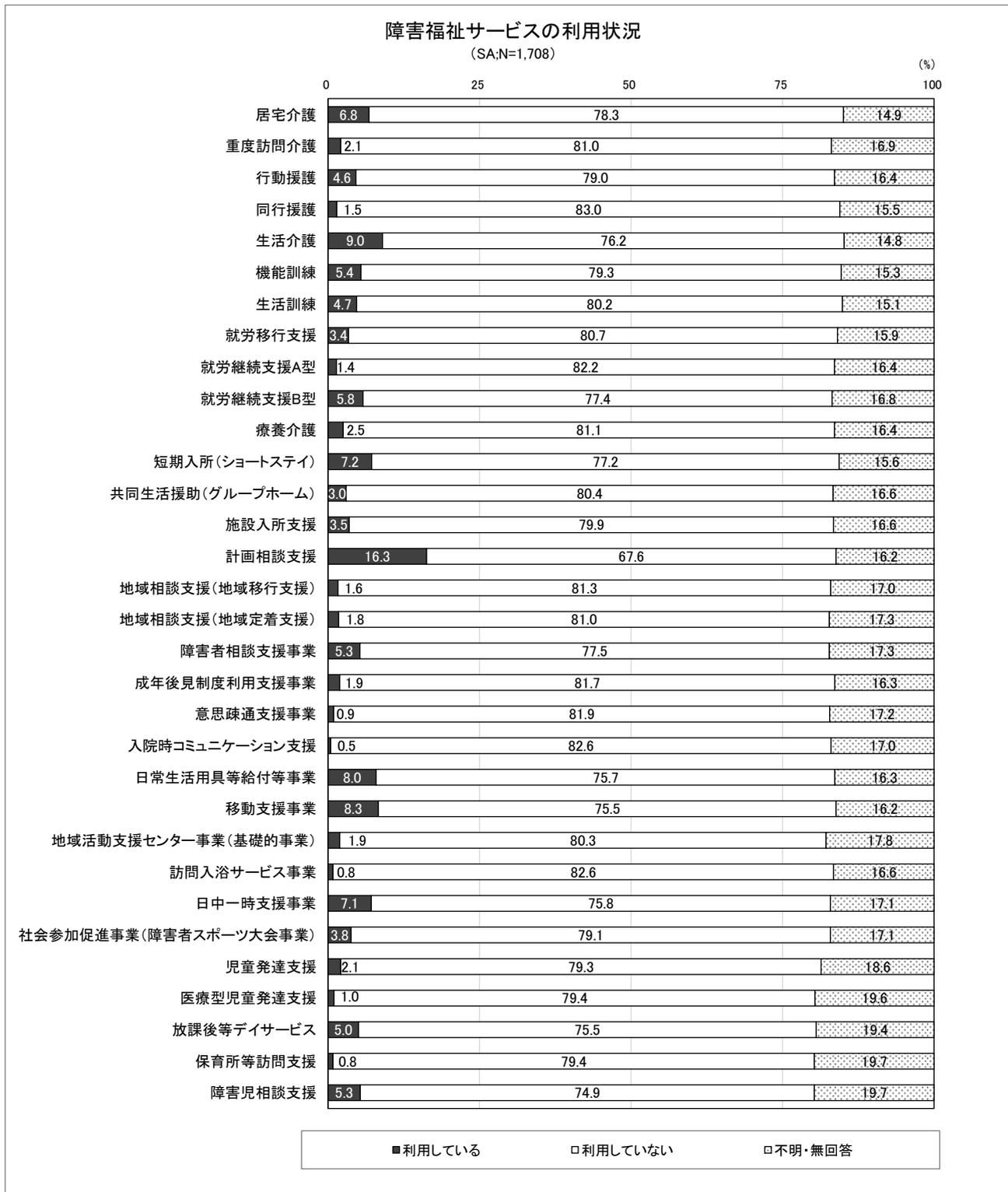
「受けていない」が最も多く71.3%、「要介護1」が4.1%、「要支援2」が3.1%などとなっています。



③ 障害福祉サービスの利用状況

「利用している」は「計画相談支援」が最も多く16.3%、次いで「生活介護」が9.0%、「移動支援事業」が8.3%などとなっています。

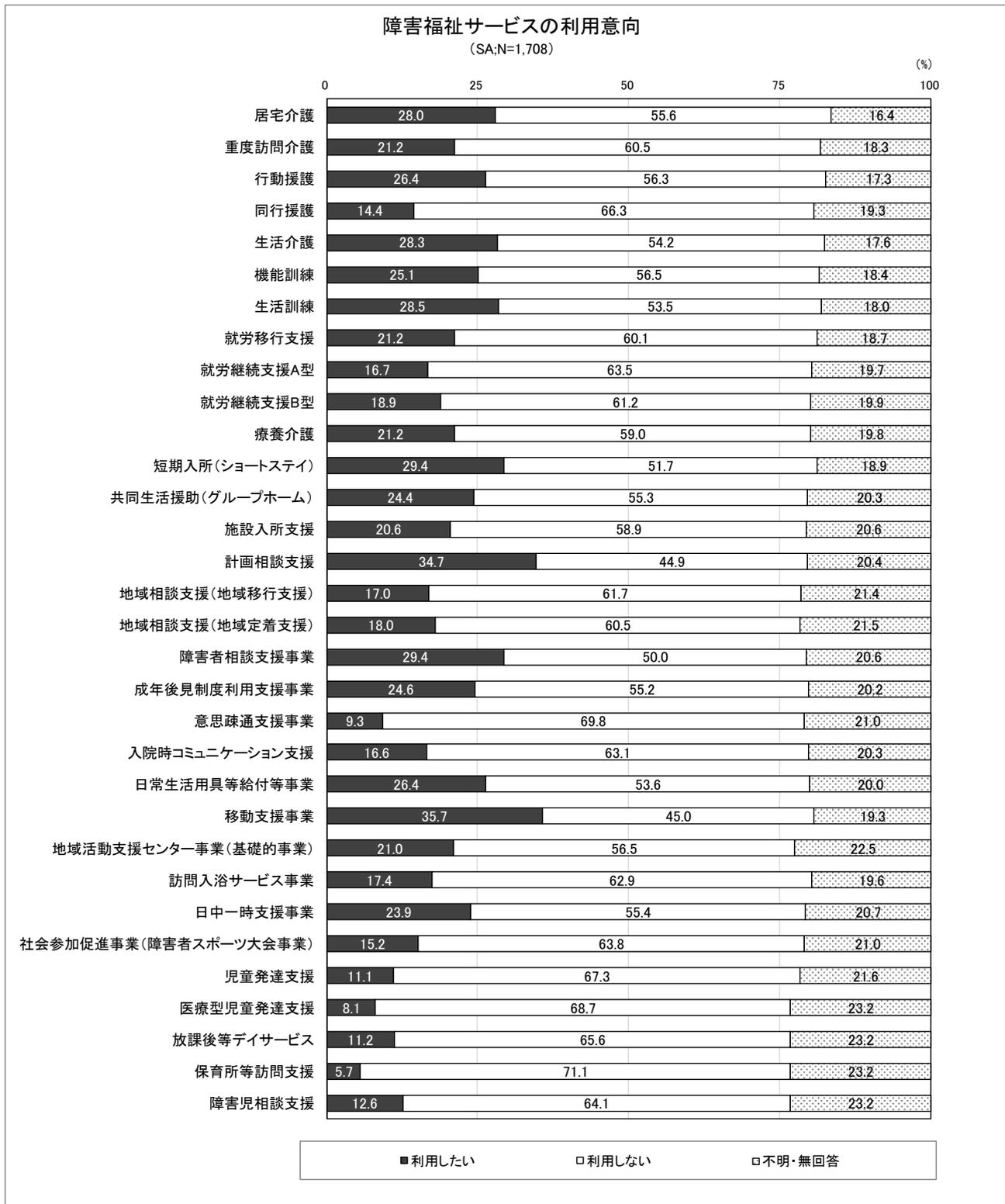
「利用していない」は「同行援護」が最も多く83.0%、次いで「入院時コミュニケーション支援」が82.6%、「就労継続支援A型」が82.2%などとなっています。



④ 障害福祉サービスの利用意向

「利用したい」は「移動支援事業」が最も多く35.7%、次いで「計画相談支援」が34.7%、「短期入所（ショートステイ）」「障害者相談支援事業」がそれぞれ29.4%などとなっています。

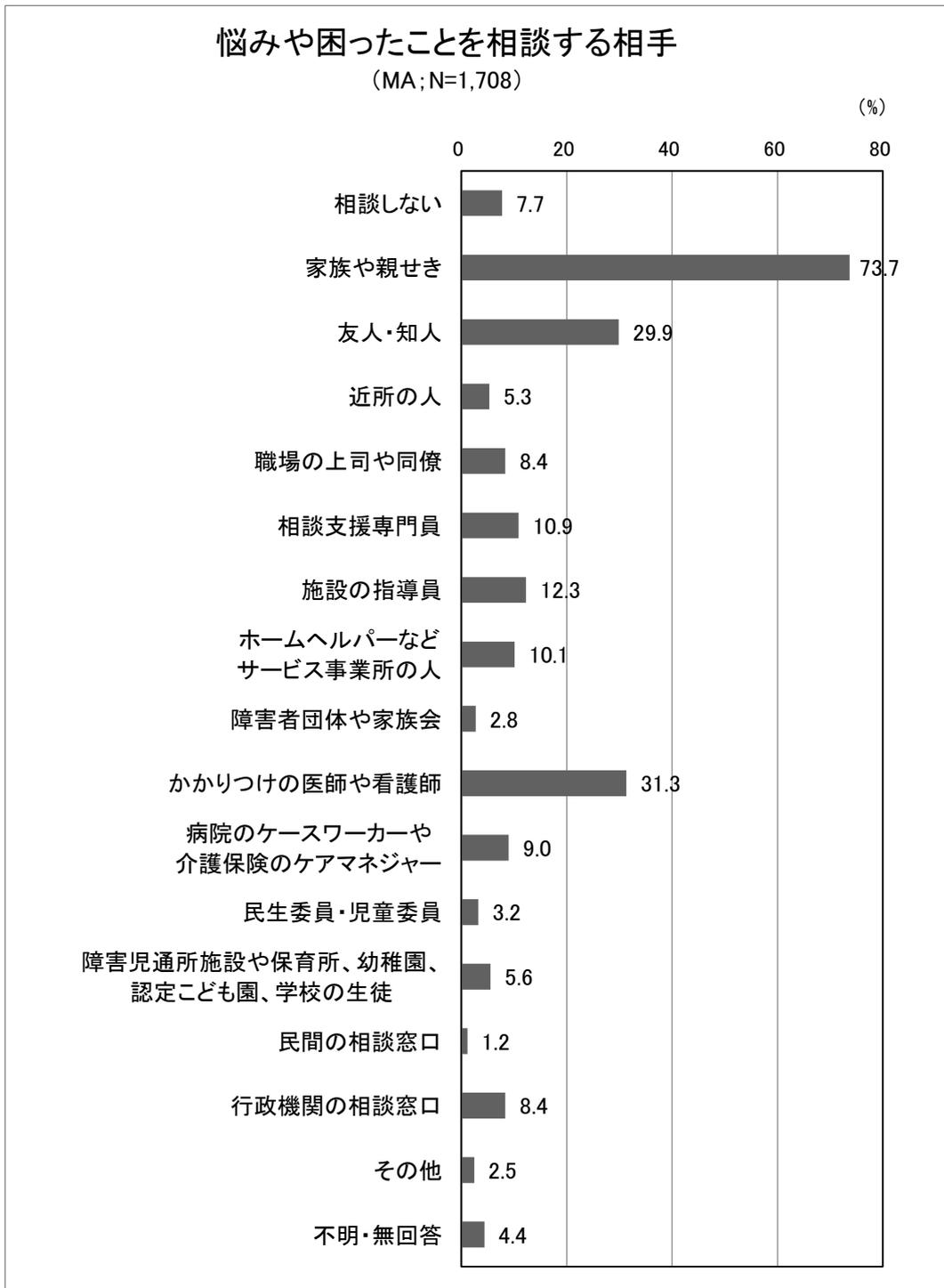
「利用しない」は「保育所等訪問支援」が最も多く71.1%、次いで「意思疎通支援事業」が69.8%、「医療型児童発達支援」が68.7%などとなっています。



(6) 相談相手について

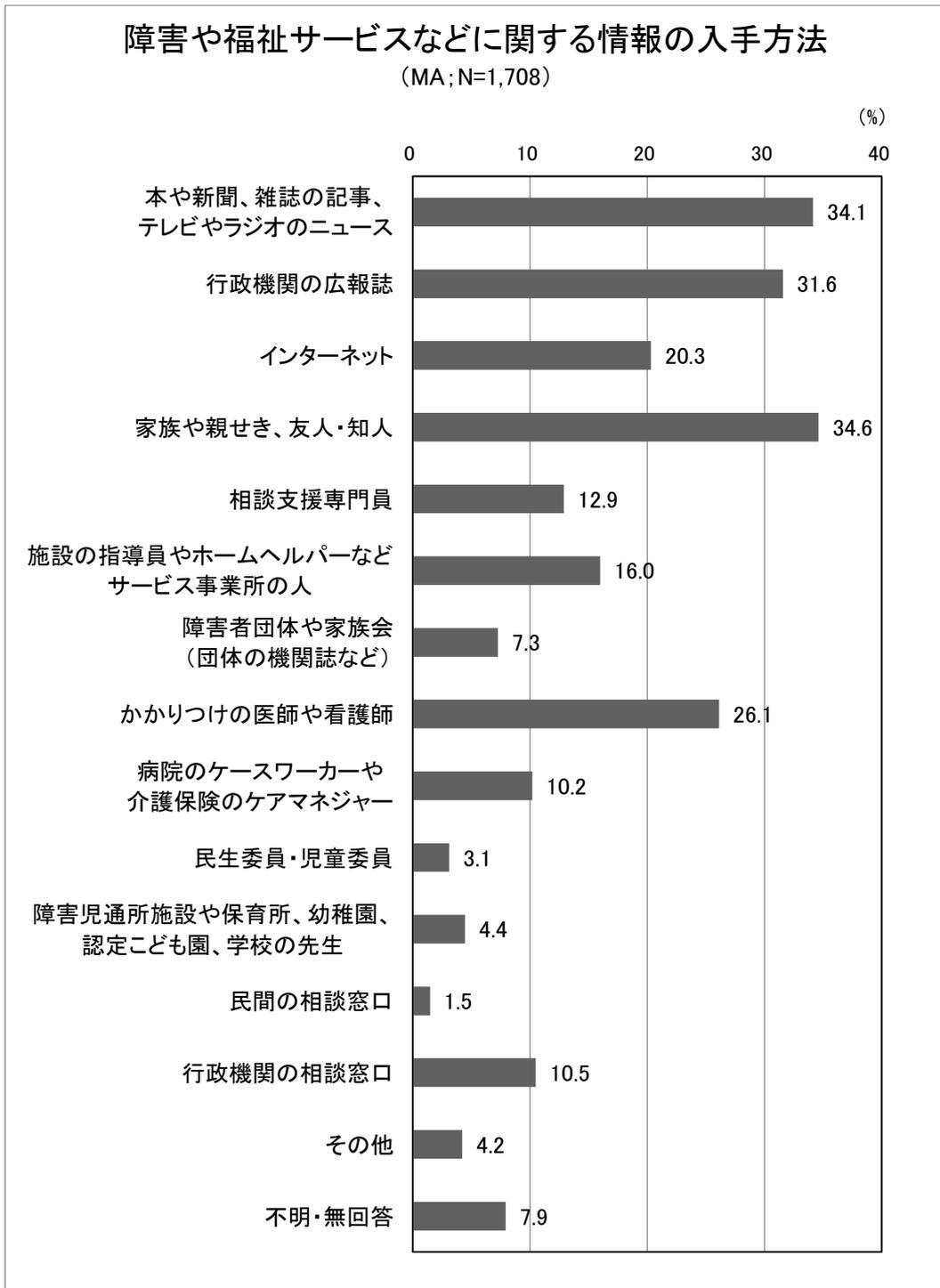
① 悩みや困ったことを相談する相手

「家族や親せき」が最も多く73.7%、次いで「かかりつけの医師や看護師」が31.3%、「友人・知人」が29.9%などとなっています。



② 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法

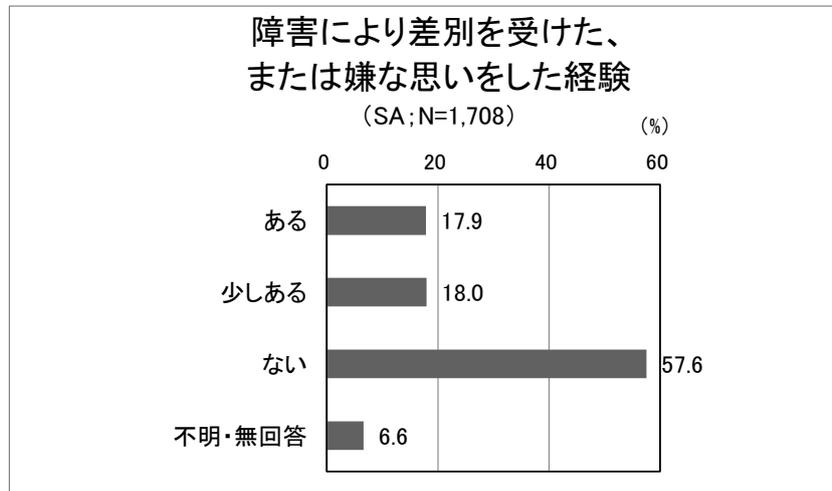
「家族や親せき、友人・知人」が最も多く 34.6%、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が 34.1%、「行政機関の広報誌」が 31.6%などとなっています。



(7) 権利擁護について

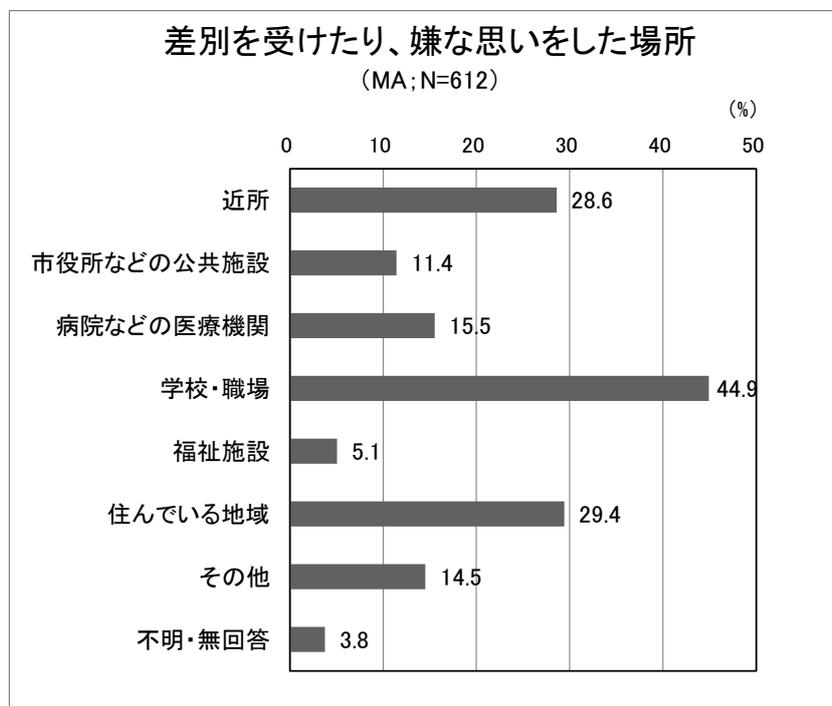
① 障害により差別を受けた、または嫌な思いをした経験

「ある」が17.9%、「少しある」が18.0%、「ない」が57.6%となっています。



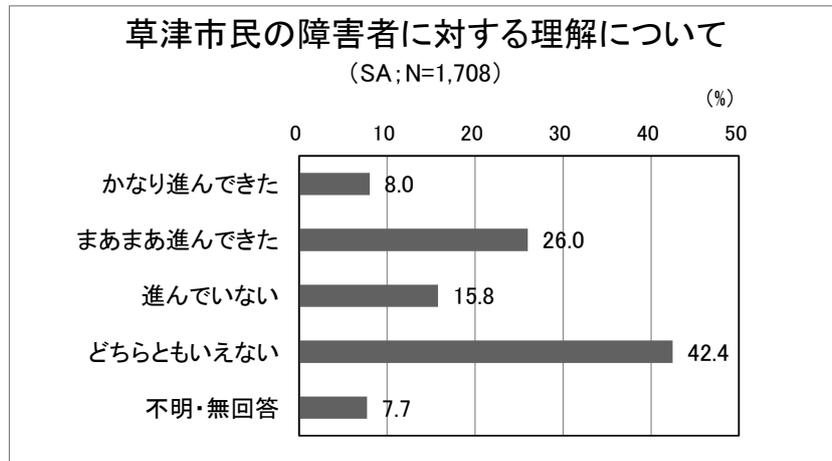
② 差別を受けたり、嫌な思いをした場所

「学校・職場」が最も多く44.9%、「住んでいる地域」が29.4%、「近所」が28.6%などとなっています。



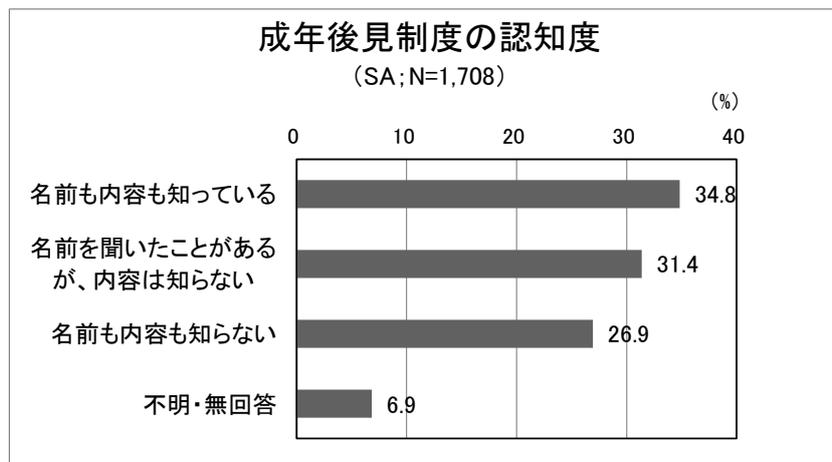
③ 草津市民の障害者に対する理解について

「どちらともいえない」が最も多く42.4%、次いで「まあまあ進んできた」が26.0%、「進んでいない」が15.8%などとなっています。



④ 成年後見制度の認知度

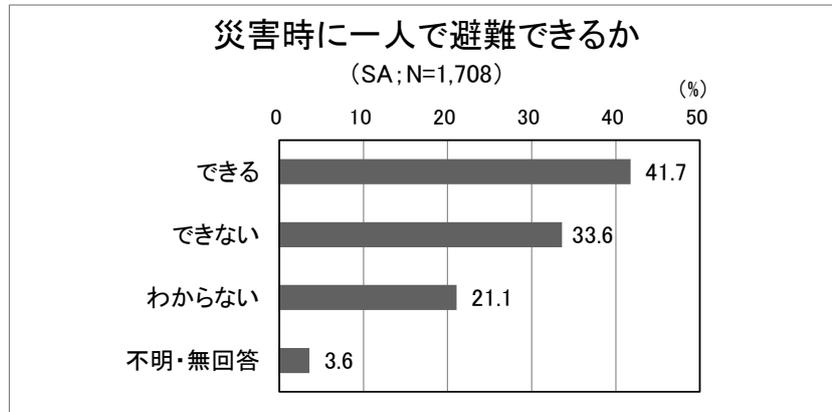
「名前も内容も知っている」が34.8%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が31.4%、「名前も内容も知らない」が26.9%などとなっています。



(8) 災害時の避難等について

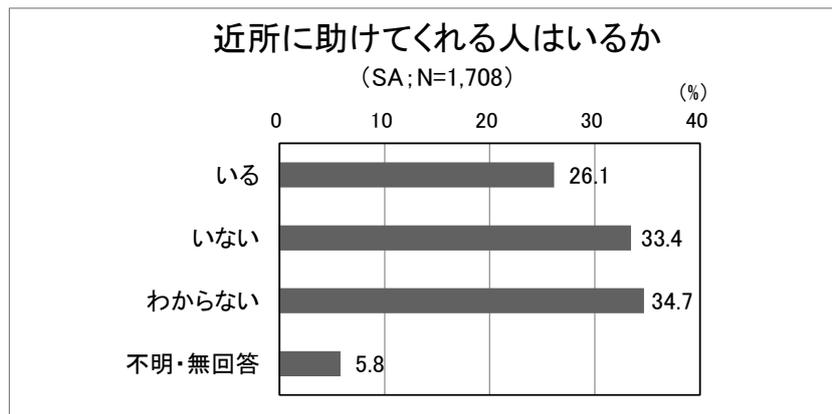
① 災害時に一人で避難できるか

「できる」が41.7%、「できない」が33.6%、「わからない」が21.1%などとなっています。



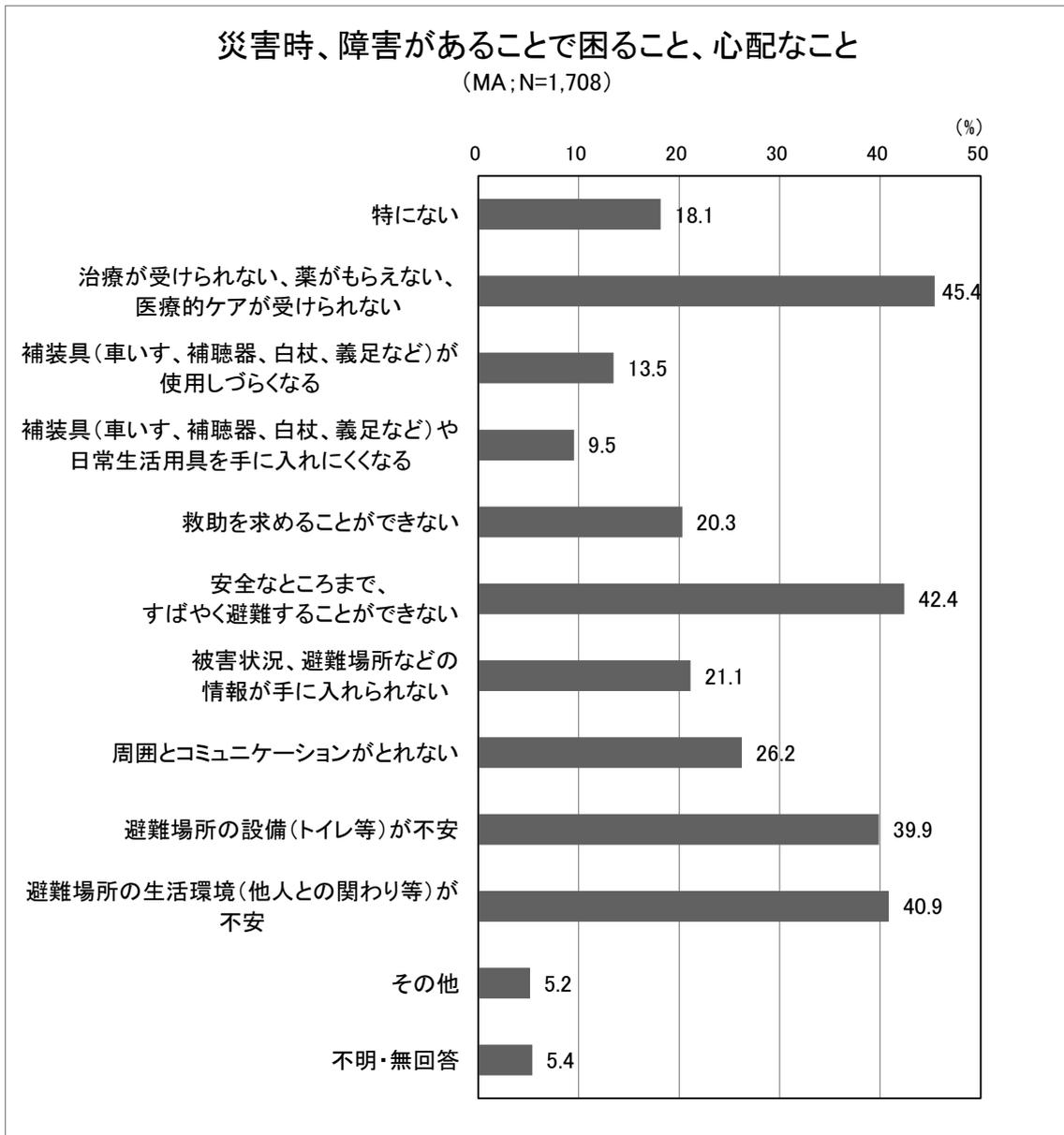
② 近所に助けしてくれる人はいるか

「いる」が26.1%、「いない」が33.4%、「わからない」が34.7%などとなっています。



③ 災害時、障害があることで困ること、心配なこと

「治療が受けられない、薬がもらえない、医療的ケアが受けられない」が最も多く45.4%、次いで「安全なところまですばやく避難することができない」が42.4%、「避難場所の生活環境（他人との関わり等）が不安」が40.9%などとなっています。



(9) 草津市の障害者施策について

① 各施策についての満足度

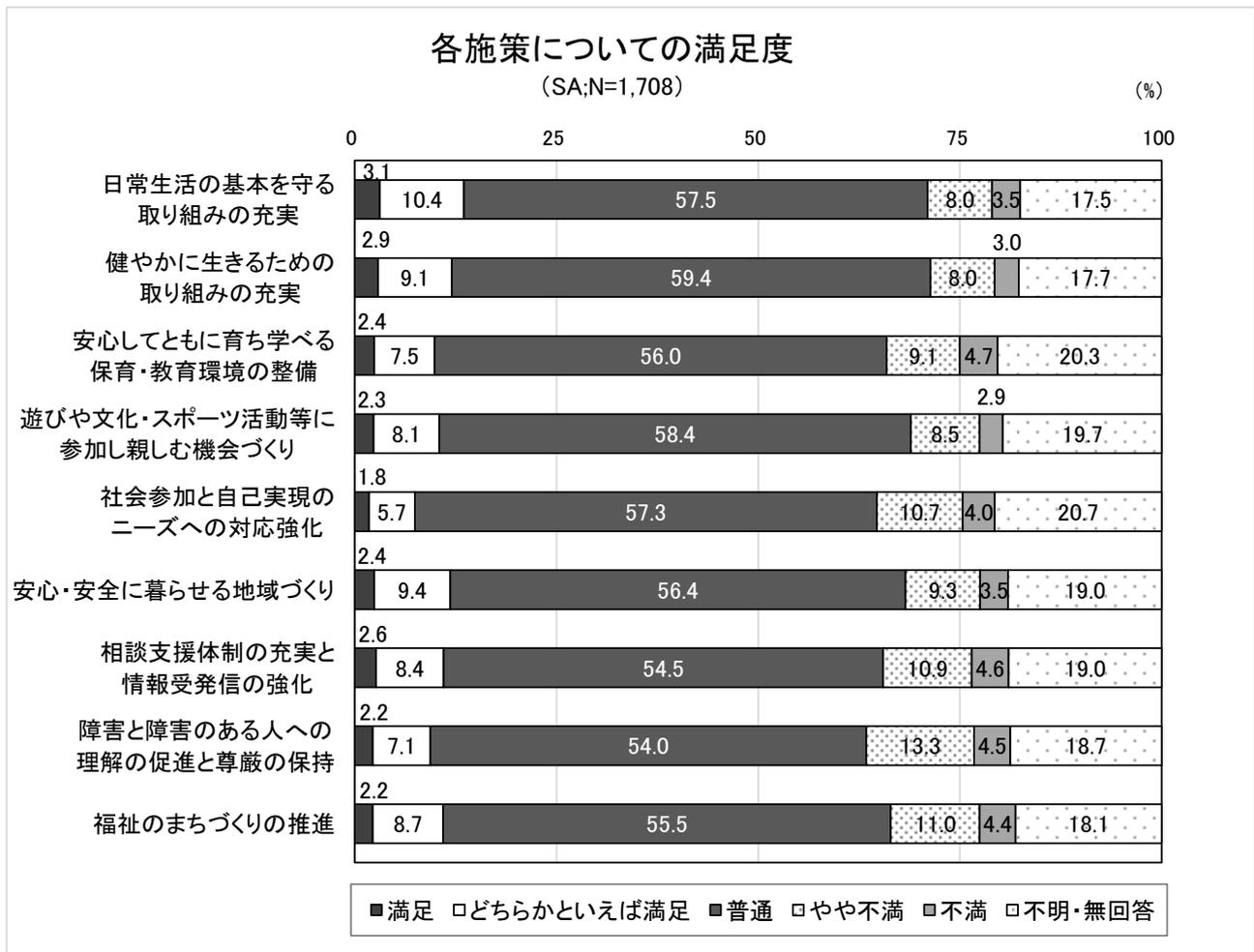
「満足」は「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が最も多く3.1%、次いで「健やかに生きるための取り組みの充実」が2.9%、「相談支援体制の充実と情報受発信の強化」が2.6%などとなっています。

「どちらかといえば満足」は「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が最も多く10.4%、次いで「安心・安全に暮らせる地域づくり」が9.4%、「健やかに生きるための取り組みの充実」が9.1%などとなっています。

「普通」は「健やかに生きるための取り組みの充実」が最も多く59.4%、次いで「遊びや文化・スポーツ活動等に参加し親しむ機会づくり」が58.4%、「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が57.5%などとなっています。

「やや不満」は「障害と障害のある人への理解の促進と尊厳の保持」が最も多く13.3%、次いで「福祉のまちづくりの推進」が11.0%、「相談支援体制の充実と情報受発信の強化」が10.9%、「社会参加と自己実現のニーズへの対応強化」が10.7%などとなっています。

「不満」は「安心してともに育ち学べる保育・教育環境の整備」が最も多く4.7%、次いで「相談支援体制の充実と情報受発信の強化」が4.6%、「障害と障害のある人への理解の促進と尊厳の保持」が4.5%などとなっています。



② 各施策についての重要度

「重要」は「安心・安全に暮らせる地域づくり」が最も多く 34.3%、次いで「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が 31.6%、「福祉のまちづくりの推進」が 30.9%などとなっています。

「やや重要」は「健やかに生きるための取り組みの充実」が最も多く 28.4%、次いで「日常生活の基本を守る取り組みの充実」が 27.5%、「福祉のまちづくりの推進」が 26.6%、「障害と障害のある人への理解の促進と尊厳の保持」が 26.1%などとなっています。

「普通」は「遊びや文化・スポーツ活動等に参加し親しむ機会づくり」が最も多く 37.2%、次いで「社会参加と自己実現のニーズへの対応強化」が 30.2%、「安心してともに育ち学べる保育・教育環境の整備」が 25.4%などとなっています。

「あまり重要でない」は「遊びや文化・スポーツ活動等に参加し親しむ機会づくり」が最も多く 4.9%、次いで「社会参加と自己実現のニーズへの対応強化」が 2.5%、「安心してともに育ち学べる保育・教育環境の整備」が 1.1%などとなっています。

「重要でない」は「遊びや文化・スポーツ活動等に参加し親しむ機会づくり」が最も多く 1.0%、「社会参加と自己実現のニーズへの対応強化」が 0.7%、「安心してともに育ち学べる保育・教育環境の整備」「障害と障害のある人への理解の促進と尊厳の保持」がそれぞれ 0.6%などとなっています。

